

和仏法律学校講義録

島田, 鐵吉 / ジュモラル / 遠藤, 忠次 / 加古, 貞太郎

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

1

(号 / Number)

号外の10

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

53

(発行年 / Year)

1901-06-20

和佛法律學校

講義錄

學 費 部

號 外 之 拾

民 法 物 權 至 自 十 七 章 (自 三 七 至 六 〇) 法 學 士 加 古 貞 太 郎

民 事 訴 訟 法 第 一 編 (完) (自 三 七 七 至 三 四 四) 法 學 士 遠 藤 忠 次
表紙及び目次 六頁

戶 籍 法 (自 一 九 三 至 二 二 三) 法 學 士 島 田 鐵 吉

羅 馬 法 (自 五 至 六 二) フォン・デル・ヘーグ ムラール



090
1900
1-2-10

ノ進行ヲ妨ケサルモノナルコトハ喋喋辯明ヲ要セサル所ナリ然ルニ新民法カ
特ニ第三百條ヲ明規セシ所以如何蓋シ時效中斷ノ原因ハ第四百十七條ニ列舉
スル事由ニ限ルモノナレハ債權ノ消滅時效モ亦此等ノ事由ノ存スルニ非サレ
ハ敢テ其進行ヲ妨ケラレサルコトヲ推知スルニ足ルト雖モ留置權者ニ於テ債
權カ之ニ牽聯シテ發生シタル物ヲ留保スルハ暗黙ニ債務履行ノ請求ヲ爲スモ
ノト推定シ得ヘキカ如ク殊ニ債務者カ留置物ヲ其權利者ノ占有ニ放置スルハ
即チ暗黙ノ債務存續ノ承認ヲ爲スモノト推定スヘキモノニ非サルカノ疑ヲ生
セシムルニ足ルノミナラス現ニ基キ立案セル立法例及ヒ學說ハ頗ル
多數ニシテ我舊民法ノ如キモ亦此主義ニ從フモノナレハ新民法ハ之ニ反對ノ
立法主義ニ從フコトヲ明白ナラシムル爲メ特ニ第三百條ノ規定ヲ設ケ留置權
ノ行使ハ債權ノ消滅時效ノ進行ヲ妨ケサル旨ヲ明記セシ所以ナリ而シテ新民法
法カ此ノ如ク舊民法ト正反對ノ主義ニ從フ所以ハ主トシテ消滅時效ヲ中斷セ
シムヘキ債務履行ノ請求又ハ債務存續ノ承認ハ之ヲ爲ス者ヨリ必ス明確ニ其
意思ヲ表示スルコトヲ要スルモノニシテ濫ニ之ヲ推定スヘキモノニ非ス隨テ

民法物權 留置權 留置權ノ效力

新民法
留置權

留置權者カ單ニ其權利ノ目的物ヲ留保シ又債務者ハ之ヲ看過スルノ事實ノミニ依リテ右ニ違フル所ノ請求又ハ承認又ハ承認アリタリト推定スルハ甚タ妥當ヲ缺クノミナラス債務者ハ往往留置權ノ存立ヲ知ラサルコトアルヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テ尙ホ債務者ハ債務ノ存續ヲ承認シタルモノト推定スルカ如キハ實ニ不當ノ甚シキモノナレハ此等ノ推定ニ基キテ消滅時效ノ進行ヲ妨ケシムヘキニ非ス殊ニ留置權ノ存續セル間ハ之ニ依リテ擔保セラレタル債權モ亦無限ニ存立スルモノトセハ債權ノ消滅時效ニ關スル規定ハ其趣旨ヲ全リスルコト能ハサルニ至ルモノナレハナリ

第四節 留置權ノ消滅

留置權ハ既ニ講述セシ如ク擔保物權ノ一種ナリ隨テ一般ノ權利ニ共通スル消滅原因(例ヘハ權利者ノ拋棄又ハ目的物ノ滅失等ノ如シ)及ヒ他ノ擔保權ニ共通スル消滅原因(例ヘハ主タル債權ノ消滅ノ如シ)ニ依リテ留置權モ亦消滅ヲ來スハ勿論ニシテ特ニ茲ニ說明ノ煩勞ヲ執ルノ必要ナカルヘシ故ニ本節ニ於テハ

留置權ニ關スル特別消滅原因ニ付テ講述スヘシ而シテ其特別消滅原因ニアリ其一ハ占有ノ喪失ニシテ其二ハ債務者カ相當ノ擔保ヲ供スルコト是ナリ
 第一 占有ノ喪失 第三百二條ハ規定シテ曰ク「留置權ハ占有ノ喪失ニ因リテ消滅ス但第二百九十八條第二項ノ規定ニ依リ貸貸又ハ買入ヲ爲シタル場合ハ此限ニ在ラス」下蓋シ占有ハ嘗テ講述セシ如ク留置權ノ本體ヲ構成スル要素ナリ隨テ占有ヲ喪失スレハ留置權モ亦消滅ニ歸スヘキハ當然ノ事理ニシテ特ニ明文ノ規定ヲ要セサルカ如シ思フニ第三百二條本文ノ規定ヲ揭ケタル所以ハ同條但書ノ規定ヲ設クルカ爲メニ置キタルモノニ非サルカ而シテ同條但書ノ規定モ亦不必要ノ法文ナリトノ批評ヲ免レサルヘシ如何トナレハ第二百九十八條第二項ノ規定ニ依リ留置權者カ債務者ノ承諾ヲ得テ留置物ヲ貸貸シ又ハ其買入ヲ爲シタル場合ニ於テハ勿論留置權者ハ留置權ヲ拋棄スル意思ヲ以テ此等ノ行爲ヲ爲スモノニ非サルヘク留置權者ハ此等ノ行爲ヲ爲スモ敢テ其占有ヲ失フコトナク貸貸人又ハ買權者ニ代理セラレテ其占有權ヲ保續スルモノナレハナリ

第二 債務者カ相當ノ擔保ヲ供スルコト 是レ留置權消滅ノ第二ノ特別原因ニシテ實ニ第三百一條ノ明規スル所ナリ而シテ第一ノ消滅原因トシテ掲ゲタル占有ノ喪失ノ如ク留置權ノ性質ニ基クモノニ非スシテ法律ノ規定ニ因ル特別ノ消滅原因ナリ抑モ留置權ハ債權ノ擔保ヲ確保セシカ爲メニ法律カ債權者ニ付與シタル權利ナリ隨テ債務者ニシテ其債務ヲ擔保セシムル限リハ債權者カ留置物ノ占有ヲ喪失セシ場合ノ外留置權ハ依然存續スルヲ以テ債務者ハ之ヲ消滅セシメ以テ留置物ヲ利用スル機會ヲ有スルコト能ハサルヘシ然ルニ留置權ハ嘗テ講述セシ如ク其性質上望マシキ權利ニ非ス即チ留置權者ハ單ニ物ヲ占有スルヲ得ルニ止マリ之ヲ利用スルコトヲ得スシテ財貨ハ空シク其效用ヲ停止スルモノナレハ經濟上ノ不利之ヨリ甚シキハナシ而シテ債權者ニ損害ヲ與フルコトナクシテ留置權ヲ消滅セシムルモ敢テ不當ニ非サルノミナラス依テ以テ經濟上ノ不利ヲ避クルコトヲ得ヘキナリ然ラバ債權者ニ損害ヲ與フルコトナキ方法果シテ如何是レ他ナシ債務者ヲシテ相當ノ擔保ヲ供セシムルニ在リ如何トナレハ債務者ニシテ其債權ノ擔保トシテ相當ナル質權又ハ抵當權

ノ如キ物上擔保ヲ設定スルカ或ハ十分ノ實力アル保證人ヲ供スルトキハ縱令留置權ヲ消滅セシムルモ債權者ニ損害ヲ與ヘサルノミナラス此等ノ擔保ハ其效力留置權ニ比シテ強力ナルヲ以テ却テ債權者ニ取リテ利益アルモノト謂フヘキナリ是レ特ニ法律カ此ノ如キ消滅原因ヲ規定セシ所以ナリ

第八章 先取特權

第一節 總 則

第一款 先取特權ノ性質

先取特權ノ性質ニ關シテハ學者間大ニ議論ノ存スル所ニシテ隨テ之ニ關スル立法例モ亦種種ニシテ一様ナラス羅馬ニ於テハ先取特權ハ前章ニ說明セシ留置權ト同シク債權ニシテ物權ト爲リ居ラザリキ獨逸法系ノ諸國ニ在リテハ債權ノ特別ノ效力トシテ規定セリ佛蘭西民法ニ於テハ不動産上ノ先取特權ノ物權ナルコトニ關シテハ一點ノ疑義ヲ挿ム餘地ナシト雖モ動産上ノ先取特權ニ關シテハ反對說ヲ主張スル學者ナキニ非ス其理由ニ曰ク動産ニ付テハ追及權

ナシ追及權ナケレハ動産上ノ先取特權ハ物權ニ非スト然リト雖モ其關係條文ヲ對照攻究セハ動産上ノ先取特權モ亦不動産上ノ先取特權ト同シク物權ナルコト佛蘭西民法ノ解釋トシテ正當ナルコト敢テ疑ヲ容ルヘキニ非ナルナリ我舊民法亦之ヲ以テ物權ト爲セリ新民法ハ佛蘭西民法及ヒ我舊民法等ノ例ニ倣ヒ之ヲ物權トシテ規定セリト雖モ例外トシテ物權ニ非ナル特別ノ場合アリ是レ先取特權カ債權其他物權以外ノ權利ノ上ニ存在スル場合ニシテ即チ第三百四條第三百六條乃至第三百十條第三百十四條及ヒ第三百二十條ニ規定スル場合同是ナリ第三百四條ニ於テハ先取特權ハ金錢其他ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得ト規定シ第三百六條乃至第三百十條ニ規定スル所謂一般ノ先取特權ハ債務者ノ總財産ノ上ニ存スルモノナレハ債務者ノ財産ハ單ニ物權ニ止マラスシテ各種ノ原因ヨリ發生シタル債權及ヒ物權以外ノ諸種ノ權利ニ依リテ構成セラルヘク又第三百十四條ニ於テ貸貸人ノ先取特權ハ讓渡人又ハ轉貸人カ受テヘキ金額ニ及フト規定シ第三百二十條ニ於テ公吏保證金ノ先取特權ハ其保證金ノ上ニ存在スト規定セリ此等ノ場合ニ於テハ先取特權ハ金錢ナル有體物

ニ對スルニ非スシテ金錢ナル有體物ヲ受取ルヘキ債權ヲ目的トスルモノナリ隨テ此等ノ場合ニ存スル先取特權ハ物權ニ非スシテ新民法カ先取特權ヲ以テ物權トシテ規定セシ性質ヲ一貫セサルモノナリトハ批評ヲ免レスト雖モ此等ノ特別ノ場合ヲ規定セシ立法ノ趣旨ハ後ニ講述スルノ機會アルヘシ先取特權ハ前述セシカ如ク新民法ニ於テハ之ヲ物權トシテ規定セシカ故ニ極メテ有力ナル權利ナリ隨テ如何ナル債權ヲ擔保スルカ爲メニ之ヲ付與スヘキカ又之ニ依リテ擔保セラレヘキ債權ノ範圍如何ハ實ニ重大ナル問題ニシテ其規定ノ當ヲ得ルト否トハ實ニ其債權者ノ一身ノ利害ニ止マラスシテ延テ德義上經濟上社會ノ全般ニ影響ヲ及ホスモノナレハ立法者ハ一方ニ於テハ此ノ如キ特權ヲ債權者ニ與フルニ因リテ他ノ債權者ヲ不當ニ害セテラシムコトヲ注意スルト同時ニ他ノ一方ニ於テハ若シ此特權ヲ與ヘタルトキハ或債權者ヲシテ自己ノ財産ヲ以テ債務者ノ負擔ヲ分擔シ他ノ債權者ニ故ナク利益ヲ得セシムル結果ニ陥ラシムルニ至ルコトヲ防カサルヘカラス加之先取特權ノ規定ハ公益上ノ理由ニ基クモノニシテ若シ此特權ヲ與ヘタルトキハ德義ニ背キ風俗ヲ

據り或ハ經濟上ノ利益ヲ害スル虞アル場合ニ於テ之ヲ付與シ以テ特別ノ債權者ノ利益ヲ保護スヘキモノナルコトヲ顧慮セサルヘカラス其權利ノ保護ハ其ノ利益ヲ保護スルコトヲ以テ其ノ利益ヲ保護スルコトヲ得ヘシ

第一款 先取特權ノ定義

先取特權トハ法律ニ定メタル種類ノ債權ヲ有スル者カ債務者ノ一奴又ハ特定ノ財産ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ辨濟ヲ受クル權利ヲ謂フ(第三〇三條參觀此定義ヲ分析説明スレハ自ラ先取特權ノ何物タルヲ知悉スルコトヲ得ヘシ) 第一 先取特權ハ法律ノ明文アル場合ニ限リ存在ス 先取特權ハ所謂法定ノ物上擔保ノ一種ニシテ法律カ公益上特ニ或債權ヲ保護スル理由アルヨリ設ケタルモノナリ即チ先取特權ハ基本債權ノ種類性質ニ基キ法律カ之ニ附著セシメタル擔保權ナレハ當事者カ任意ニ之ヲ設定スルコトヲ得サルノミナラス之ヲ處分シテ他ノ債權ノ擔保ニ移スコトヲ得サルモノナリ此ノ如ク先取特權ノ存在スルニハ必ス法律ノ明文ヲ要ストセハ如何ナル種類ノ法律ニ於テ規定セラルルカラ攻究スルコト最モ必要ナリトス而シテ其大多數ハ民法中ニ規定セ

ラレ即チ以下講述セントスル第二編物權第八章中ニ規定セラルルモノナリ勿論性質上先取特權ニシテ第二百九十七條ニ於ケルカ如ク留置權ノ效力トシテ規定セラレシ場合ナキニ非ス又動産質ハ先取特權ヲ生スルモノナリト爲ス我舊民法及ヒ佛國民法ノ如キ立法例アリ是レ理論上正當ナリト雖モ質權ハ單ニ先取特權ヲ生スルノミニ止マラス留置權其他附隨ノ權利アルヲ以テ之ヲ以テ別種ノ權利ト看做スコト極メテ便利ナリ故ニ新民法ハ理論上ノ觀察ヲ指キ實際ノ便宜ニ基キ留置權先取特權質權及ヒ抵當權ハ各別箇ノ權利トシテ規定シタルヲ以テ此等ノ場合ニ先取特權ノ規定ヲ適用スルコトヲ得サルモノト爲セシコトハ嘗テ説明セシカ如シ尙ホ民法以外ノ法律ニ於テ先取特權ヲ規定セシモノハ主トシテ租稅ニ關スル法律ナリトス即チ明治二十一年法律第一號市制第一百二條第三項町村制第一百二條第三項明治二十二年法律第九號國稅徵收法第十四條乃至第十六條同年法律第三十二號國稅滯納處分法第六條同年法律第三十三號明治二十三年法律第八十八號府縣稅徵收法第九條第十條明治二十七年法律第十七號明治二十八年法律第三十一號ノ如キ是ナリ

第二 先取特權ハ物上擔保ノ一種ナリ隨テ他ノ物上擔保ノ如ク其權利者ニ優先權追及權及ヒ不可分權ヲ與フルモノナリ其權利者ニ與フルニ止マラス物上擔保タル留置權質權及ヒ抵當權共ニ皆優先權ヲ與フルモノナリ隨テ此等ノ間ニ存スル差違ヲ説明スルハ敢テ無益ノ業ニ非サルヘシ(第一)留置權者ノ有スル優先權ハ代價ノ上ニ存セスシテ物其レ自身ノ上ニ存ス即チ留置權者ハ物ヲ留置スル間ハ如何ナル債權者ヨリモ強力ナル權利ヲ有スト雖モ若シ留置權者ニシテ自ラ其物ヲ賣却スルトキハ復タ優先權ヲ有スルコトナシ然ルニ先取特權ニ在リテハ債權者自ラ其目的物ヲ賣却シタル場合ハ勿論他人カ之ヲ賣却セシ場合ニ於テモ其代價ノ上ニ優先權ヲ有ス是レ兩者ノ間ニ存スル著シキ差異ナリ尙ホ留置權ニ在リテハ占有ハ其本體ヲ構成スル要素ナリト雖モ先取特權ニ於テハ占有ヲ要素ト爲スモノト然ラサルモノトアリ運輸ノ先取特權ノ如キハ占有ヲ要素ト爲ス場合ノ一例ナリ(第二)先取特權ト質權ト異ナル點ハ質權ニ於テハ占有ヲ要素ト爲スト雖モ先取特權ハ占有ヲ要素ト爲スモノト然ラサルモノ

ノトアルコトハ前述セシカ如シ又先取特權ハ代價ニ付テ優先權ヲ有スルノミナリト雖モ質權ニ於テハ優先權ノ外ニ留置權類似ノ權利ヲ包含スルモノナリ而シテ兩者優先ノ順序ハ概シテ之ヲ言ヘハ質權ハ先取特權ニ比シテ強力ナリトス(第三)先取特權ト抵當權トノ差異ヲ略言スレハ抵當權ハ決シテ占有ヲ必要トセスト雖モ先取特權ハ時トシテ之ヲ必要トスル場合アリ又抵當權ハ不動産ニ付テノミ存在スト雖モ先取特權ハ動産ニ付テモ存在スルモノナリ而シテ其優先ノ順序ヲ比較スルニ先取特權ハ概シテ抵當權ヨリモ強力ナリトス(二)追及權 前款ニ於テ説明セシ如ク佛蘭西民法ノ解釋トシテ動産上ノ先取特權ハ追及權ヲ與ヘサルモノナリ隨テ物權ニ非ストノ學說行ハルモノトヲ一言セリ我新民法ニ於テモ動産上ノ先取特權ニ付テハ一見追及權ナキカ如シ如何トナレハ動産上ノ先取特權ニ付テハ物カ債務者又ハ自己ノ占有ニ存スルコトヲ必要トシ債務者カ其動産ヲ第三取得者ニ引渡シタル後ハ其動産ニ付キ最早先取特權ヲ行フコトヲ得ス(第三)三三條而シテ動産ニ關スル物權ノ讓渡ハ引渡アルニ非ナレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ストハ第百七十八條ノ

規定スル所ナリ故ニ當事者間ニ於テハ契約ノ當時權利移轉スト雖モ其物ノ引渡アリテ始メテ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルモノナリ隨テ第三者ニ對抗シ得ルトキハ即チ其物ノ引渡アリタルトキナルヲ以テ最早先取特權ヲ行フコト能ハサレハナリ然リト雖モ是レ實際ノ結果ヨリ觀察ヲ下シタルニ過キサルモノニシテ進歩シタル法理ヲ採用シタル今日ノ法律ニ於テ追及權ヲ以テ占有ト伴フモノト爲スノ非ナルコトハ前章ニ於テ留置權ヲ説明スルニ際シテ詳述シタル所ニシテ理論上動産上ノ先取特權モ亦追及權ヲ與フルモノナルコト明白ナリ加之實際ノ結果ヨリ推論スルモ亦追及權ヲ與フルモノナリト結論セサルヲ得ナルナリ即チ動産ノ讓渡ハ引渡アルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ストノ意義ハ引渡ハ讓受人ヨリ之ヲ第三者ニ對抗セントスル場合ノ制限ニシテ他人ヨリ其讓受人ニ對シテ讓受ヲ對抗スルニハ引渡ハ有無ヲ問フヲ要セサルナリ隨テ動産ノ引渡ナキ場合ニ於テ先取特權者カ動産ノ讓渡アリタルコトヲ認ムルコト勿論可ナリ而シテ其動産ニ付キ尙ホ先取特權ヲ行フコトヲ得ルハ是レ其權利ノ物權ナルカ爲メニ非スシテ何ソヤ

茲ニ追及權ノ條下ニ於テ説明スヘキ一事項アリ第三百四條ノ規定是ナリ同條第一項ハ規定シテ曰ク先取特權ハ其目的物ノ賣却貨貸滅失又ハ毀損ニ因リテ債務者カ受クヘキ金錢其他ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但先取特權者ハ其拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スコトヲ要スト又同條第二項ハ債務者カ先取特權ノ目的物ノ上ニ設定シタル物權ノ對價ニ付キ亦同シト是レ先取特權カ其目的物ニ代ルヘキ債權ノ上ニモ亦存在スヘキコトヲ規定シタルモノニシテ此場合ニ於ケル先取特權ノ物權ニ非サルコトハ嘗テ説明シタル所ナリ抑モ先取特權ハ債權平等ノ原則ニ反シテ特別ニ或債權者ヲ保護スルモノナルヲ以テ其之ヲ適用スルニハ極メテ嚴密ナルヲ要スヘト雖モ既ニ之ヲ與ヘタル以上ハ其效力ヲシテ十分ナラシメサルヘカラス而シテ其效力ヲシテ十分ナラシムルニハ目的物カ變體シタルトキ其之ヲ代表スル者ニ對シテ其效力ヲ及ホサシムルヲ以テ必要トス而シテ先取特權ハ素ト物ノ代價ニ付テ之ヲ行フモノナルヲ以テ其目的物ニ代ルヘキ債權ノ上ニモ之ヲ行フコトヲ得ト爲スハ當然ノ事理ニシテ又其效力ヲ確實ナラシムルモノト謂フヘシ第三百四條ノ規定アル

所以ニシテ同條ニ規定スル所ハ皆目的物ノ變換シタルモノニシテ物ノ全部又ハ一部ヲ代表スルモノタルコトヲ見ルヘシ耶チ同條ノ規定ヲ分析説明スレバ左ノ如シ

(1)先取特權ノ負擔アル物ヲ賣却シタルトキ、先取特權ノ負擔アル物ヲ賣却シタルトキハ其代價ハ其物ヲ代表スルモノト謂フヘシ爾テ其代價ニ付キ先取特權ヲ行フコト否其代價ノ支拂ヲ受タル債權ノ上ニ先取特權ヲ行フコトヲ得セシムルハ當然ノ事理ナルノミナラス第三百三十三條ニ依リ動産ノ上ニ存スル先取特權ハ債務者カ其動産ヲ第三取得者ニ引渡シタル後ハ之ヲ行フコトヲ得ナルヲ以テ此規定ハ此等ノ場合ニ於ケル先取特權ノ效力ヲ確實ナラシムルモノト謂フヘキナリ

(2)先取特權ノ負擔アル物ヲ貸貸シタルトキ、先取特權ノ目的物ヲ貸貸シタル場合ニ於テハ其借貸即チ小作料家賃或ハ損料等ノ如キハ其ニ著物ノ使用ノ對價ニシテ其物ノ價值ノ一部ヲ代表スルモノト謂フヘシ是レ法律カ第一ノ場合ト同シク其使用ノ對價タル金錢其他ノ物ヲ受取ル債權ノ上ニ先取特權ヲ行フ

コトヲ得セシメタル所以ナリ

(3)先取特權ノ負擔アル物カ滅失シ又ハ毀損シタルニ因リ第三者カ爲メ債務者ニ賠償ヲ負擔シタルトキ、例ヘハ先取特權ノ目的物ハ三者ノ不法行爲ニ因リ全部滅失シ又ハ一部ノ毀損ヲ生シタルトキハ債務者ハ損害賠償ノ請求權ヲ有ス而シテ此權利ハ其物ノ所有權ノ代リニ發生シタルモノナリ或ハ先取特權ノ目的物ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ其物カ滅失シタルトキハ債務者ハ保險者ニ對シテ保險金ヲ請求スルヲ得ヘシ而シテ此保險金ハ滅失シタル物ノ代價ヲ表示スルモノナルヲ以テ此等ノ場合ニ於テ其請求權ノ上ニ先取特權ヲ行フコトヲ得セシメタル

(4)先取特權ノ負擔アル物ノ上ニ債務者カ物權ヲ設定シ其對價ヲ得ヘキトキ、例ヘハ債務者カ先取特權ノ目的物ノ上ニ永小作權ヲ設定シ以テ小作料ヲ得ヘキトキ或ハ地上權ヲ設定シ以テ地代ヲ得ヘキトキ或ハ又地役權ヲ設定シ以テ賃金ヲ得ヘキ場合ノ如シ此等ノ場合ハ第二ノ場合タル先取特權ノ目的物ヲ賃貸シタル場合ト異ナルコトナシ是レ法律カ其對價ヲ請求スル權利ノ上ニ先取

特權ヲ行フコトヲ得セシメタル所以ナリ。其後勤ノ資本スルニ對シテハ、前所述セシ各場合ニ於テ其目的物ニ代ルヘキ債權ノ上ニ先取特權ヲ行使セント欲セハ先取特權者ハ金錢其他ノ物ノ拂渡又ハ引渡前ニ差押ノ手續ヲ爲ササルヘカラス是レ至當ノ制限ニシテ然ラザレハ他ノ債權者ハ爲メニ損害ヲ被ルノ恐アレハナリ。其後勤ノ資本スルニ對シテハ、前所述セシ各場合ニ於テ其目的物ニ代ルヘキ債權ノ上ニ先取特權ヲ行使セント欲セハ先取特權者ハ金錢其他ノ物ノ拂渡又ハ引渡前ニ差押ノ手續ヲ爲ササルヘカラス是レ至當ノ制限ニシテ然ラザレハ他ノ債權者ハ爲メニ損害ヲ被ルノ恐アレハナリ。

(三) 不可分權。是レ第三百五條ノ規定スル所ニシテ同條ハ第二百九十六條ノ規定ヲ準用セリ而シテ不可分權ノ何モノタルハ前章ニ於テ詳述セシヲ以テ再ヒ茲ニ贅セス。

第二節 先取特權ノ種類

先取特權ハ之ヲ分チテ三種ト爲ス第一種ハ一般ノ先取特權ト稱スルモノニシテ債務者ノ總財産ノ上ニ存スルモノナリ即チ動産不動産及ヒ其他ノ財産權ノ上ニ存ス第二種ハ動産ノ先取特權ト稱スルモノニシテ債務者ノ特定動産ノ上ニ存ス第三種ハ不動産ノ先取特權ト稱スルモノニシテ債務者ノ特定不動産ノ

上ニ存ス以下款ヲ分チテ順次之ヲ講述スヘシ。

第一款 一般ノ先取特權

一般ノ先取特權ハ債務者ノ總財産即チ動産不動産及ヒ其他ノ財産權ノ上ニ存ス故ニ一般ノ先取特權ヲ附著セシメラレタル債權ハ其效力極ノチ強力ニシテ其擔保最モ確實ナルモノト謂ハサルヘカラス隨チ如何ナル原因ヨリ生シタル債權ニ此先取特權ヲ附著セシムヘキヤハ重要ノ問題ニシテ其債權ノ種類ハ必要ノ範圍ニ制限セシムハ他ノ債權者ハ爲メニ損害ヲ被ルコト尠カラサルヘシ是レ第三百六條カ一般ノ先取特權ニ依リテ擔保セラルヘキ債權ノ原因ヲ四種ニ限定セシ所以ニシテ此等ノ原因ヨリ發生セシ債權ヲ有スル者ニ非ラザレバ一般ノ先取特權ヲ有スルコトナシ。

第一 共益費用ノ先取特權。此チ債權者ハ債權者ノ共同利益ノ爲メニ爲シタル債務者ノ財産ノ保存清算又ハ配當ニ關スル費用ニ付キ存在スルモノナ

リ例ハ債務者ノ財産ニ封印ヲ施シ之カ目録ヲ調製シ債權債務ノ清算ヲ爲シ其財産ヲ債權者ニ配當スルカ爲メニ費消セシ費用ニ付テハ債務者ノ總財産中ヨリ先取スル權利ヲ有スルカ如キ是ナリ而シテ此等ノ費用ハ通常各債權者ノ爲メニ必要ナルモノニシテ此等ノ手續ヲ履行セザレハ各債權者ハ辨濟ヲ受タルコトヲ得サルモノナリ隨テ此費用ハ債權者ヲ辨濟ヲ受タルニ至リタル原因ヲ成セルモノト謂フコトヲ得ヘシ是レ一般ノ先取特權ヲ以テ此債權ヲ保護セシ所以ナリ然リト雖モ右ノ費用ノ爲メ利益ヲ受ケサル債權者ニ對シテモ尙モ此先取特權ヲ行フコトヲ得ルモノトモハ其債權者ノ迷惑計ルヘカラス如何トナレハ利益ヲ受ケサル債權者ニ取リテハ此費用ハ辨濟ヲ受ケルニ至リタル原因ヲ成スモノニ非ザレハナリ是レ本條第二項ニ於テ前項ノ費用中總債權者ニ有益ナラザリシモノニ付テハ先取特權ハ其費用ノ爲メ利益ヲ受ケタル債權者ニ對シテノミ存在スル規定セシ所以ナリ

第二 葬式費用ノ先取特權

此先取特權ハ次ニ講述スヘキ家人給料ノ先取特權及ヒ日用品供給ノ先取特權

ト同シク其ニ公益上ノ理由ニ基クモノナリ隨テ公平ヲ保持スルカ爲メニ規定セシ前邊ノ公益費用ノ先取特權トハ其理由ヲ異ニスルモノナルコトヲ注意スヘシ
 葬式費用ノ先取特權カ公益上ノ理由ニ基クモノナルコトヲ解說スレハ之ヲ二箇ノ方面ヨリ觀察說明スルコトヲ得ヘシ即チ一ハ道德上ノ理由ニシテ他ハ衛生上ノ理由ニシテ抑モ冠婚葬祭ハ古來人生ノ大禮トスル所ニシテ殊ニ葬式ハ如キ死者ニ厚クスル所以ニシテ我國ノ社會道德上最も重要視スル一事項ナリ然ルニ死者ノ葬式ニ付テ之ヲ營ムコト能ハサルカ如キコトアラシカ公益上由由シキ大事ナリト謂ハサルヘカラス又一面ニ於テ死屍ヲ處置スルコトヲ得タルカ如キハ公衆ノ衛生上漫然看過スヘカラサル事項ニ屬ス是レ第三百八條ニ於テ葬式費用ノ債權者ニ先取特權ヲ付與シ以テ此悲慘ニシテ且ツ危險ナル事態ナカラシメンコトヲ圖リタル所以ナリ然リト雖モ先取特權ヲ以テ保護セラレル葬式費用ハ純然タル葬式費用ニシテ葬式ニ連續シタル費用ノ如キハ之ヲ包含セザルナリ例ヘハ葬式後ノ法會祭典ニ關スル費用ヲ如キ或ハ石碑調成

費用ノ如キハ先取特權ヲ以テ保護セラルヘキニ非サルナリ又身分不相應ニ華美莊重ナル葬儀ヲ營ミタル費用ノ如キ之ニ先取特權ヲ附隨セシムルハ法律ノ精神ニ非サルナリ然リト雖モ此先取特權ハ單ニ衛生上ノ理由ニシテモ基キタルモノニ非スシテ道徳上ノ理由モアレハ債務者ノ身分ニ相應シタル葬儀ヲ營ミタル費用ノ債權者ハ先取特權ヲ以テ保護セラルヘシ第三〇八條第一項ノ規定ニ依リ債務者ノ親族又ハ家族ノ死亡セシ場合一年少者婦女子ノ死亡セシ場合ニハ父兄ニ於テ葬儀ヲ營ムヘキモノニシテ又家族ハ財産ヲ有セサルコト普通ナリ然ルニ戸主貧困ニシテ葬儀ヲ營ム能ハサル如キコトアリテハ公益上有害ナルコト決シテ前述セシ場合ニ讓ラサルナリ是レ第三百八條第二項ニ於テ前項ノ先取特權ハ債務者カ其扶養スヘキ親族又ハ家族ノ身分ニ應ジテ爲シタル葬式ノ費用ニ付ラモ亦存在ス下規定セレ所以ナリ而シテ其扶養スヘキ親族又ハ家族ハ親族編ノ規定ヲ一讀スヘシ又此場合ニ於テモ自分相應ノ條件ヲ必要トス而シテ此場合ニ於テハ債務者ノ身分相應ニ非スルニ死者ノ自分相應ナルコトヲ注意セナルヘカラス

第三 雇人給料ノ先取特權

（其扶養スヘキ親族ノ先取特權ノ種類）

雇人給料ノ先取特權ハ第三百九條ノ規定スル所ナリ是レ亦公益上ノ理由ニ基クモノニシテ之ヲ直接ニ説明スレバ第一通常雇人ノ如キハ貧困者ニシテ僅少ノ給料ヲ得テ僅ニ其生活ヲ維持スル者ナリ然ルニ一朝主人ノ破産若クハ分散スルニ遭ヒ給料ノ不拂ヲ來スカ如キコトアリテハ或ハ餓饑ニ迫ルコトナキヲ保セス是レ社會經濟上極メテ有害ナリ（第二從來雇人ヲ使用シ來リシ者カ一朝雇人ニ見捨テラルルニ至リテハ其不便ヲ感ズルハ勿論其人ニシテ疾病ニ罹リ居ルカ如キ場合ニ於テハ或ハ生命ニ關係ヲ及ホスコトナキヲ保セス是レ道徳上大ニ顯慮スヘキ事項ナリトス是レ此先取特權ヲ認メタル所以ナリ

此先取特權ハ一切ノ雇人皆之ヲ有スト雖モ其期間ト金額ト關スルニ制限アリ即チ最後ノ六箇月ノ給料ナルコト及ヒ其金額ハ五十圓ヲ超過セザルコト是ナリ我舊民法債權擔保編第四十一條ニ於テハ最後ノ一箇年ノ給料ヲ擔保セント雖モ給料ハ普通月拂ナルノミダラズ一箇年前ニ遡リテ保護ヲ與フルトキハ或ハ他ノ債權者ノ保護ニ比シテ其度ニ過タルノ虞アリ是レ最後ノ六箇月ノ給料

ニ制限セシ所以ナリ又其金額ヲ限定シタルハ雇人ト云フカ如キ廣キ文字ヲ用
フルトキハ其中ニハ高給ノ雇人モアルヘク而シテ此等ノ者ニ總テ六箇月間ノ
給料ニ對スル先取特權ヲ與フルトキハ甚シク他ノ債權者ノ利益ヲ害スルコト
アルヲ以テ英國破産法カ單ニ雇人ノミヲ保護シ且ツ給料ノ額ヲ限定ス
ルノ例ニ倣ヒ又我國ノ經濟上ノ程度ヲ參酌シ五十圓ヲ限度トスルヲ以テ相當
ト認メタルカ故ナリ

第四 日用品供給ノ先取特權
日用品供給ノ先取特權ハ第三百十條ノ規定スル所ナリ此先取特權ヲ與フル理
由モ亦公益上ノ理由ニ基クモノナリ即チ債務者如何ニ貧困ナルモ日用品ヲ購
求スルコトヲ得タルカ如キコトナカラシメンカ爲メニ日用品供給者ニ先取特
權ヲ與ヘ以テ此憂ナカラシメタリ勿論無制限ニ此先取特權ヲ行フコトヲ得セ
シムルトキハ他ノ債權者ニ不慮ノ損失ヲ及ホシ不公平ノ結果ヲ來スヲ以テ左
ノ制限ニ從フコトヲ要ス
(第一) 人ニ關スル制限 債務者又ハ其扶養スヘキ同居ノ親族並ニ家族及ヒ其

僕婢ニ供給シタルモノナルコトヲ要ス

(第二) 種類及ヒ分量ニ關スル制限 法文ニハ生活ニ必要ナル飲食品及ヒ薪炭
油トアリ隨テ衣服ノ如キ生活ニ必要ナル日用品タルヘシト雖モ其供給ニ付テ
ハ此先取特權存在セス又酒類牛乳ノ如キ飲料ハ果シテ生活ニ必要ナル飲食品
ナリト謂フコトヲ得ヘキヤ否ヤ尙ホ生活ニ必要ナル米鹽薪炭ノ如キモ生活ニ
必要ナル程度ヲ超過セシ分量ニ付テハ先取特權ナシ(第三) 時期ニ關スル制限 最後ノ六箇月ノ供給ナルコトヲ要ス

第二款 動産ノ先取特權

第三百十一條ハ規定シテ曰ク左ニ掲ケタル原因ヨリ生シタル債權ヲ有スル者
ハ債務者ノ特定動産ノ上ニ先取特權ヲ有ス

- 一 不動産ノ貸借
- 二 旅店ノ宿泊
- 三 旅客又ハ荷物ノ運輸

四 動産ノ保存

六 動産ノ買買

七 種苗又ハ肥料ノ供給
八 農工業ノ勞務
以上列記セシ八種ノ原因ヨリ生シタル債權ヲ有スル者ハ債務者ノ特定動産ノ上ニ先取特權ヲ有ス即チ本法ハ八種ノ動産ノ先取特權ヲ認メタルモノナリ

第一 不動産賃貸ノ先取特權
不動産賃貸ノ先取特權ニ關シテハ第三百十二條乃至第三百十六條ニ規定セリ

(第一) 如何ナル債權ニ付キ此先取特權アリヤ 是レ第三百十二條ニ於テ規定スル所ニシテ原則トシテ不動産ノ賃貸借關係ヨリ生スル賃貸人ノ權利ハ總テ皆此先取特權ニ依リテ保護セラルルモノナリ即チ其不動産ノ借賃ハ勿論賃借人カ修繕費ヲ負擔スヘキ約束アル場合ニ於テ其義務ヲ履行セズシテ修繕ヲ爲ササルトキハ其修繕ノ費用其他賃借人カ故意又ハ過失ニ因リテ不動産ニ損害

口頭辯論ノ期日ヲ定メ辯論ヲ經テ判決ヲ以テ故障ヲ棄却スルカ如キハ實際ニ於テ寔ニ迷惑ノ手續ト謂ハサルヘカラス是レ便宜上此規定ヲ設ケタル所以ナリ其他第九十二條第四百二條ノ規定ノ如キ皆同一ノ旨趣ニ出ツ但シ故障却下ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得第二五七條

右ノ如ク裁判長カ故障ヲ判然不適法ナリトシテ命令ヲ以テ却下スル場合ノ外ハ裁判所ハ故障申立ノ書面ヲ相手方ニ送達シ口頭辯論ノ期日ヲ定メ當事者雙方ヲ呼出ササルヘカラス第二五八條法文ニハ故障ニ付キ口頭辯論ノ新期日ヲ定メ下アルモ此新期日ナルモノハ故障ノ受理不受理ニ關スル辯論ノモノナリトストルヲ得何トナレハ裁判所ニ於テ故障ヲ適法ナリトストルトキハ直チニ本案ノ辯論ヲ爲サシメサルヘカラスレハナリ此場合ニ於テモ尙ホ裁判所ハ先ツ故障ノ適法ナルヤ否ヤ即チ故障ヲ申立テラレタル判決カ果シテ故障ヲ許スヘキモノナルヤ否ヤ又其故障ハ法律ニ定メタル方式ニ適合スルヤ否ヤ故障期間内ニ爲シタルモノナルヤ否ヤニ付キ職權調査ヲ爲ササルヘカラス何トナ

レハ此等ノ點ニ付キ多少ノ疑問アルトキハ裁判長ハ故障ヲ却下スル能ハザル
 ノミナラス縱令判然不適法ナル場合ニ於テモ裁判長カ之ヲ却下セザルコトナ
 キニアラサレハナリ而シテ若シ故障カ右要件ノ一ヲ缺クトキハ之ヲ不適法ト
 シテ棄却スルノ判決ヲ爲スヘキナリ此判決ハ裁判所ノ職權上調査スヘキ故障
 ノ要件ノ欠缺ニ基ク判決ナルヲ以テ假ニ當事者ノ一方カ闕席シタル場合ニ於
 テ爲サレタリトスルモ之ヲ闕席判決ト稱スルコトヲ得ス隨テ通常ノ上訴方法
 ニ依リテ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルノミ(第二五九條) 且テ
 裁判所カ故障ヲ適法トスルトキハ訴訟ハ懈怠前ノ程度ニ復ス即テ當事者ノ懈
 怠ハ之ニ依リテ除去セララルモノトス是レ故障申立ノ主タル效果ナリ是ヲ以
 テ裁判所ハ直チニ本案ノ口頭辯論ヲ爲サシムヘク當事者ハ新ニ攻撃若クハ防
 禦ノ方法ヲ提出スルコトヲ得ヘシ又被告ハ妨礙ノ抗辯ヲ提出スルコトヲ得ヘ
 キナリ然レトモ若シ闕席判決カ辯論續行期日ノ懈怠ニ基クモノナルトキハ前
 同ノ口頭辯論ニ於テ爲シタル辯論證據決定證據調中間判決等ハ皆其效力ヲ有
 スルハ勿論ナリ(第二六〇條)故障ノ適法ナルヤ否ヤヲ調査スルハ固ヨリ裁判所

ノ職權ニ屬シ而シテ故障ヲ適法トスル場合ニ於テハ別ニ形式の裁判ヲ爲スニ
 トテ要セス直チニ本案ノ辯論ヲ爲サシムルヲ得ルモノナリ然レトモ若シ故障
 ノ適法ナルヤ否ヤニ付キ當事者ノ間ニ爭ヲ生シタルトキハ別ニ其點ニ付キ中
 間判決ヲ爲スコトヲ得ヘク又之ヲ相當トセザルトキハ終局判決ノ理由中ニ故
 障ノ適法ノナル旨ノ裁判ヲ爲スヘキモノト信ス 且テ當事者ノ一方カ闕席
 故障ノ受理セラレタルトキハ闕席判決ハ實體上消滅ニ歸シタルモノトシ更ニ新
 辯論ニ基キ判決ヲ爲スヘキモノナレトモ然レトモ尙ホ闕席判決ハ形式上存在
 スルモノナルカ故ニ若シ新辯論ニ基キテ爲スヘキ本案ノ判決カ前闕席判決ト
 符合スルトキハ之ヲ維持スル旨ノ判決ヲ言渡スヲ要シ然ラズルトキハ前闕席
 判決ヲ廢棄シ更ニ相當ノ新判決ヲ言渡スコトヲ要ス(第二六一條)他尙ホ闕席
 判決カ故障受理ノ後ニ於テモ形式上存在スルノ結果トシテ若シ其判決ニ假執
 行ノ宣言アリテ強制執行ノ開始セラレタルトキハ適法ノ故障申立アリタル場
 合ニ於テモ其強制執行ハ當然停止セラレス故障申立者ハ第五百十二條第五百
 條ノ規定ニ從ヒ強制執行ノ一時ノ停止又ハ執行處分ノ取消ノ命令ヲ求ムルコ

トヲ得ルニ過キス。又ハ本案ノ辯論ヲ爲ササル場合ニ裁判所カ故障ヲ適法ナリトシタルトキハ出頭シタル故障申立人ノ申立ニ因リ闕席判決ヲ爲スヘキモノトス但シ故障カ不適法ナルトキハ當事者ノ孰レカ期日ヲ懈怠スルヲ問ハス常ニ其懈怠ヲ理由トスルニアラサル故障棄却ヲ判決ヲ爲ササルヘカラス若シ又故障申立人自ラ右辯論期日ヲ懈怠シ且ツ闕席判決ヲ爲ス要件ヲ具備スルトキハ故障申立人ニ對スル故障棄却ノ闕席判決ヲ爲スヘキモノトス之ヲ新闕席判決ト曰フ此闕席判決ニ對シテハ更ニ故障ヲ申立タルコトヲ得ス唯懈怠ナカリシコトヲ理由トシテ上訴ヲ爲シ得ルニ過キス(第二六三條)而シテ右故障申立人ノ辯論期日ノ懈怠ハ其期日ノ變更セラレ又ハ辯論ノ延期セラレタル場合ニ於テモ亦同一ノ結果ヲ生スヘシト雖モ若シ一旦此期日ニ當事者雙方出頭シテ口頭辯論ヲ爲シ故障カ適法ト認メラレ訴訟カ闕席前ノ程度ニ復シタル後其辯論續行ノ期日ヲ定メタル場合ニ故障申立人カ續行期日ニ闕席シタルトキハ最早故障棄

却ノ新闕席判決ヲ爲スヘカラス唯此場合ニ於テハ更ニ故障ヲ許スヘキ再度ノ闕席判決ヲ爲スヘキモノナリ是レ第二六三條ノ規定ニハ第二四九條ノ規定ト異ナリテ辯論續行期日ノ懈怠ヲ包含セサル所以ナリ。又ハ右再度ノ闕席判決ニ對シ懈怠者カ更ニ適法ノ故障ヲ申立テ新辯論期日ニ出頭シテ辯論ヲ爲シ訴訟ノ闕席前ノ程度ニ復シタル後又辯論續行ノ期日ニ闕席スルトキハ同一事件ニ付キ數度ノ故障ヲ許スヘキ闕席判決ヲ爲スヘキモノナリ此ノ如クヌルトキハ同一事件ニ付キ數度ノ故障ヲ許スヘキ闕席判決ヲ生シ殆ト底止スル所ヲ知ラサルカ如キモ再度以上ノ闕席判決ニハ第五百一條ノ規定ニ依リテ假執行ノ宣言ヲ付スルコトヲ得ヘク而シテ故障申立ハ當然執行停止ノ效ヲ生セザルヲ以テ自ラ執行ヲ遅延セシムルノ弊害ヲ救済スルニ足ルヘシ。又ハ適法ナル故障ノ申立ハ懈怠ノ結果ヲ除去スルノ效アルハ前述ノ如クナレトモ懈怠ニ因リテ生シタル訴訟費用ハ本案訴訟ノ曲直如何ヲ論セズ懈怠者常ニ之ヲ負擔スヘク故障ノ申立ヲ爲シタルカ爲メニ其責ヲ免ルルコト能ハス故ニ例ヘハ原告カ闕席シテ却下ノ判決ヲ受ケ故障ヲ申立テ更ニ辯論ヲ經テ結局勝

訴ノ判決ヲ受ケ即チ前關席判決カ廢棄セラレタルトキト雖モ前ノ關席ノ際於ケル旅費日當等ノ訴訟費用及ヒ故障申立ニ關スル費用ノ如キハ固ヨリ原告ノ關席ナカリモハ生スヘカラザラシ無益ノ費用ナレハ原告ノ勝訴ニ拘ラス其負擔ニ歸スヘキモノナリ但シ關席判決ヲ爲スヘキ要件具備セザルニ拘ラス裁判所カ關席判決ヲ爲シタルトキハ之ニ關スル訴訟費用ハ關席者ノ當然負擔スヘキモノニアラスシテ總則第七十二條第七十三條ノ規定ニ從ヒ敗訴者ノ負擔ニ歸スヘキモノナリ何トナレハ此場合ニ於テハ關席者ハ元來懈怠ノ結果ヲ受ケヘキモノニアラザレハナリ是レ第二百六十二條ニ法律ニ從ヒ關席判決ヲ爲シタルトキ云云下アル所以ナリ又關席判決カ適法ニ言渡サレタルトキト雖モ相手方ノ不當ナル異議ニ因リテ生シタル費用ハ相手方ノ負擔ニ歸ス例ヘハ被告カ原告ノ申立テタル故障ニ付キ不當ナル異議ヲ申立テ爲メニ證據調ヲ爲スニ至リタルトキハ其證據調ニ關スル費用ノ如キハ被告ノ過失ニ因リテ生シタルモノナレハ關席者タルノ故ヲ以テ之ヲ原告ニ負擔セシムルノ理ナク其之ヲ生スルニ至ラシメタル過失アル被告ヲシテ責任ヲ負ハシメタルハカラス第二

六二條)ニ其範圍ヲ定メ其範圍外ニ於テ證據調ノ費用ハ被告ノ負擔ニ歸スル故障ハ通常ノ關席判決ニ對スル唯一ノ不服申立ノ方法ニシテ關席判決ハ故障期間ノ満了ニ因リテ確定スルモノナレハ其期間内ニ爲シタル故障申立ハ關席判決ノ確定ヲ遮斷スルノ效アルハ第四百九十八條ノ明言スル所ナリ而シテ第二百六十四條ニハ故障ノ拋棄及ヒ其取下ニ付テハ控訴ノ拋棄及ヒ取下ニ付テノ規定ヲ準用ス下規定スルモ我民事訴訟法中控訴ノ拋棄ナルモノノ規定ヲ存セス此點ハ法律ノ不備ト謂ハサルヘカラス蓋シ控訴若クハ故障ノ拋棄トハ之ヲ提起スル以前ニ於テ其權利ヲ拋棄スルノ謂ナルヘシト雖モ之ニ關スル規定ヲ缺如スルノ結果其意思表示ハ直接ニ訴訟法上ノ效力ヲ生セザルモノトタリ然レトモ控訴ノ取下即チ控訴提起後ノ拋棄ニ付テハ其條件及ヒ效果ヲ第三百九十九條ニ規定セリ即チ控訴ノ取下ハ口頭辯論ノ前ニ於テハ相手方ノ承諾ナクシテ隨意ニ爲スコトヲ得ルモ一旦被控訴人カ口頭辯論ヲ始メタル後ハ其承諾アルニアラザレハ爲スコトヲ得ス是レ第一審ノ訴ヲ取下ニ於ケル下同一ノ理由ニ基クモノナリ而シテ控訴ノ取下ハ上訴權ヲ喪失スルノ結果ヲ生スルヲ

以テ未タ控訴期間ノ満了セザルトキハ雖モ爲メ第三審ニ移リ判決ハ確定スルニ至リ再ヒ之ニ對シテ控訴ヲ申立ツルコトヲ得ザルガ此控訴取下ニ關スル規定ハ總テ故障ノ取下ニ準用スヘキモノトスルハ口頭辯論ニ於テハ其未

第六節 準備手續

地方裁判所ニ於ケル第一審ノ訴訟ハ一般ニ上來説明シタル手續ニ從ヒ訴ヲ提起ヨリ口頭辯論ヲ經テ判決ニ至リ結局ヲ告グルモノナレトモ訴訟事件ノ性質ニ因リテハ係争關係ノ頗ル錯雜シテ數多ノ争點ヲ生スルコトアリ斯ル場合ニ於テモ必ズ正則ニ從ヒ受訴裁判所ノ口頭辯論ニ於テノミ一審理ノ手續ヲ爲スヘキモノトセハ係争事實及ヒ證據ノ辯論ニ紛雜ヲ來シ爲メニ訴訟ノ完結ヲ遲延セシムルノ恐アリ是ニ於テ法律ハ計算ノ當否財產ノ分別其他之ニ類スル關係ヲ目的トスル訴訟ノ口頭辯論ニ於テ許多ノ本案ノ争點ヲ生シタルトキハ簡便ノ手續ニ依リテ之ヲ審査シ以テ後ノ辯論及ヒ裁判ノ基礎ヲ定ムル爲メ受命判事ヲシテ其訴訟ニ於ケル争點及ヒ攻撃防禦ノ方法證據抗辯等ヲ查

定セシムルコトヲ許セリ之ヲ準備手續ト曰フ(第二六六條)

準備手續ハ本案ノ判決ノ爲メノ命スヘキモノナレハ本案ノ辯論前被告ガ妨訴ノ抗辯ヲ提出シタルトキハ先ツ妨訴ノ抗辯ニ付キ判決ヲ爲シ本案ノ辯論ヲ開始スルニ至リタルトキハ先ツ妨訴ノ準備手續ヲ命スルコトヲ得若シ妨訴ノ抗辯ノ理由アリテ訴ヲ却下スヘキトキハ勿論本案ノ辯論ノ必要ナクレハナリ(第二〇八條)

受訴裁判所カ準備手續ヲ命スルニムル決定ヲ言渡スヲ要ス而シテ其施行ハ受命判事ヲシテ爲サシムヘキヲ以テ決定言渡シ際裁判長ハ受命判事ヲ指定シ且ツ其施行ノ期日ヲモ定ムルモノトス但シ此期日ハ必ズシモ裁判長ニ於テ定ムルヲ要セズ裁判長若シ之ヲ指定セザルトキハ受命判事自ラ之ヲ定ムルコトヲ得故ニ裁判長ノ之ヲ定ムルト受命判事ノ之ヲ定ムルトハ其時ノ便宜ニ從フモノナリ又一且指定セラレタ所受命判事差支ヲ生シタルトキハ更ニ裁判長ハ他ノ判事ニ委任シテ準備手續ヲ施行セシムヘキモノナリ(第二六七條)

自己ノ指定シタル施行期日ニ於テ調査以テ左ノ諸件ヲ明確ニスルニ要ス
 第一又當事者ハ如何ナル請求ヲ爲スヤ又如何ナル攻撃防禦ノ方法ヲ主張スル
 第二又右請求及ヒ攻撃防禦ノ方法中其如何ナルモノニ争アリ又如何ナルモノ
 第三又争アル請求及ヒ攻撃防禦ノ方法ニ付テハ如何ナル事實上ノ關係如何ナル
 證據方法如何ナル證據抗辯ヲ主張スルヤ又其證據方法並ニ證據抗辯ニ關シ
 テ如何ナル陳述ヲ爲シ及ヒ如何ナル申立ヲ爲シタルヤ
 右ノ手續ハ本案訴訟ニ於テモ又中間訴訟ニ於テモ受訴裁判所カ判決又ハ證
 據決定ヲ爲スコトヲ得ルニ然スルマテ之ヲ續行シタル後終結スヘキモノト
 ス故ニ一旦準備手續ヲ施行シタル後ニ於テモ受訴裁判所カ其不十分ナルコ
 トヲ認めタルトキハ更ニ其手續ノ續行ヲ爲サシムルコトヲ得ヘシ(第二六八
 條)

準備手續ニ於ケル審問ノ期日ニ當事者ノ一方カ受命判事ノ面前ニ出頭セザル
 モ闕席判決ヲ爲スコト能ハサルハ勿論ナリ何トナレハ受命判事ハ前述ノ三箇
 ノ事項ヲ取調フルノ委任ヲ受ケタルノミニシテ固ヨリ訴訟ニ付キ判決ヲ爲ス
 ノ權能ヲ有セザレハナリ故ニ此場合ニ於テハ受命判事ハ先ツ其取調ヲ爲スヘ
 キ事項ニ付キ出頭シタル當事者ノ一方ノ爲シタル提供ヲ調査ニ記載シテ之ヲ
 明確ナラシメ更ニ新期日ヲ定メ其調査ノ應本ヲ闕席シタル原告若クハ被告ニ
 送達シテ之ヲ新期日ニ呼出シ其者ノ陳述ヲ聽キ又之ヲ調査ニ記載シテ明確ニ
 スヘキモノナリ然レトモ若シ前期日ニ闕席シタル原告若クハ被告カ調査ノ應
 本ノ送達ヲ受ケ且ツ合式ノ呼出ヲ受ケナカラ再ヒ新期日ニ出頭セザルトキハ
 懈怠ノ結果トシテ其調査ニ掲載セル相手方ノ事實上ノ主張ヲ自白シタルモノ
 ト看做サレ其點ニ關スル準備手續ハ完結ヲ告グルモノトス(第二六九條但シ第
 二ノ期日ニ於テ出頭シタル當事者ノ一方カ新ニ提出シタル申立又ハ事實上ノ
 主張ニ付テハ闕席者更ニ其調査ノ送達ニ依リテ通知セラレ且ツ第三新期日ハ
 呼出ヲ受ケテ尙モ闕席シタルトモニズラテ以テ右懈怠ノ結果發生セザルハ勿

論ナリ又當事者ノ雙方カ準備手續ノ期日ヨ出頭セザルトキハ通常ノ辯論期日ニ於ケルト同シク訴訟ハ休止ト爲ス當事者ノ申立ヲ待テ受命判事ハ更ニ期日ヲ定メ雙方ヲ呼出スモノトス

受命判事カ準備手續ヲ終了シテ一件記録ヲ受訴裁判所ニ遺付シタルトキハ當事者ノ一方カ準備手續ノ期日ニ闕席シタルト否トヲ問ハス受訴裁判所ハ職權ヲ以テ更ニ口頭辯論ノ期日ヲ定メ之ヲ當事者ニ通知セザルベカラズ(第二七〇條)而シテ其口頭辯論ニ於テハ當事者ハ準備手續ノ調査ニ基キテ準備手續ノ結果ヲ演述シ之ヲ材料トシテ法律上ノ口頭辯論ヲ爲ス(キモ)トス之ヲ詳言スレハ準備手續ニ於ケル當事者ノ供述ハ勿論受命判事ノ面前ニ於テ口頭ヲ以テ爲ス(キモ)ナリト雖モ既ニ之ヲ調査ニ記載シテ其手續ヲ完結シタル以上ハ其調査ハ即チ受訴裁判所ニ於ケル口頭辯論及ヒ判決ノ材料タル(キモ)ナレハ當事者其調査ニ記載セル事實ノ範圍内ニ於テ辯論ヲ爲ス(キモ)受訴裁判所ハ同シク其調査ニ付キ所謂書面審理ヲ爲シ且ツ法律上ノ論争ニ付キ判斷ヲ下シ以テ判決ヲ爲ス(キモ)トテ故ニ當事者ハ準備手續ニ於テ受命判事ノ調査ヲ

以テ明確ニス(キモ)事實又ハ證書ニ付キ陳述ヲ爲サヌ又ハ之ヲ拒ミタルトキハ(第百十一條)第二項ノ適用ヲ受クヘク而シテ準備手續ノ完結後受訴裁判所ニ於ケル口頭辯論ニ於テ更ニ其陳述ヲ追完スルコトヲ得ヌ又準備手續中受命判事ノ調査ヲ以テ明確ニセザリシ請求又ハ攻撃防禦ノ方法證據方法證據抗辯等ハ當事者ノ懈怠ニ因リテ之ヲ準備手續中ニ提出セザリシモノナルトキハ受訴裁判所ニ於ケル口頭辯論ニ於テ更ニ之ヲ提出主張スルコトヲ得ヌ唯其懈怠ナキ場合即チ準備手續終結後ニ至リテ始メテ發生シ若クハ當事者ノ之ヲ知り得タルコトヲ疏明スルトキニ限リ口頭辯論ニ於テ新ニ提出スルコトヲ得ル(第百二十七條)第一項(第二七二條)是レ亦(第百九條)第二(百十四條)ノ普通ノ規則ニ反シ一ニ準備手續ノ目的ヲ達スル爲メニ必要ナリトシテ設ケタル例外ノ規定ナリ但シ右懈怠ニ由ル失權ハ準備手續ヲ爲シタル審級ニ限リテ生スルモノニシテ上級審ニ至ルマテ繼續スルモノニアラス隨テ失權者ハ(第四百十五條)乃至(第四百十七條)ノ規定ニ依リ控訴審ニ於テ新ナル請求攻撃防禦ノ方法證據方法ヲ提出シ又新ニ事實及ヒ證書ニ付テノ陳述ヲ爲スコトヲ得(キモ)ナリ(同日)ニ出

準備手續ノ完結後原告若クハ被告カ受訴裁判所ニ於ケル口頭辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ必スシモ闕席判決ヲ爲スニ限ラス準備手續ニ於テ争ナキ請求ニ付テハ當事者ノ孰レノ闕席スルヲ問ハス申立ナシト雖モ闕席判決ニアラサル一分判決ヲ爲シ他ノ争アル請求ノミニ付キ申立ニ因リ通常ノ規定ニ從ヒ闕席判決ヲ爲スヘキモノトス(第二七一條第二項此場合ニ於テモ亦準備手續ニ於テ調書ヲ以テ明確ニシタル事項ノ範圍内ニ於テ闕席判決ヲ爲スヘキハ勿論ニシテ被告ノ闕席シタル場合ニ若シ原告カ第二百七十二條第二項ニ依リ新ナル事實上ノ供述ヲ爲シタルトキハ其供述ハ未タ被告ニ通知セサルモノナルヲ以テ被告ノ自白シタルモノト看做シ闕席判決ヲ爲スコトヲ得サルノミナラス若シ其斷ナル供述アリタルカ爲メ必要ヲ生シタルトキハ再ヒ準備ノ手續ヲ命スルコトヲ得ヘシ(第二七二條第一項)又被告ノ自白シタルモノトキハ再ヒ準備ノ手續ヲ命スル向ホ茲ニ注意スヘキハ原告若クハ被告カ準備手續終結後ノ口頭辯論ニ闕席シタル場合ニ於テ闕席判決ニアラサル一分判決ヲ爲スニハ準備手續ニ於テ訴訟ノ一部分タル請求其モノノ争ハレナリシラ必要ノ條件トスルコト是ナリ故ニ準備

手續中再度ノ闕席ヲ爲シ相手方ノ事實上ノ主張ヲ自白シタルモノト看做サレタル當事者ノ一方カ更ニ受訴裁判所ニ於ケル口頭辯論ノ期日ニ闕席スルモ其者ハ相手方ノ請求自體ヲ認諾シタルモノニアラスシテ其請求ノ原因トシテ主張セラレタル事實ヲ自白シタルモノト看做サルルニ過キサルヲ以テ之ニ對シテ闕席判決ヲ爲スヘク決シテ右ニ所謂闕席判決ニアラサル一分判決ヲ爲スヘキモノニアラス又之ニ反シ準備手續期日ノ再度ノ懈怠ニ由リ相手方ノ事實上ノ主張ヲ自白シタルモノト看做サレタル者カ口頭辯論ノ期日ニ出頭シタルトキハ闕席判決ヲ爲スヘカラスシテ單ニ裁判上ノ自白アリトシ對審判決ヲ爲スヘク若シ又右口頭辯論ノ期日ニ當事者ノ雙方出頭セサルトキハ訴訟ハ休止ト爲ルモノナリ(第二七三條第一項)又被告ノ自白シタルモノトキハ再ヒ準備ノ手續ヲ命スル向ホ茲ニ注意スヘキハ原告若クハ被告カ準備手續終結後ノ口頭辯論ニ闕席シタル場合ニ於テ闕席判決ニアラサル一分判決ヲ爲スニハ準備手續ニ於テ訴訟ノ一部分タル請求其モノノ争ハレナリシラ必要ノ條件トスルコト是ナリ故ニ準備

第二章 區裁判所ノ訴訟手續

第一節 通常ノ訴訟手續

區裁判所ハ裁判所構成法第十四條ニ列舉スル事件ニ付キ當然第一審ノ管轄權ヲ有ス即チ其取扱フヘキ事件ハ概シテ輕微ナルカ若クハ簡單ナルカ又ハ迅速ニ裁判スルヲ要スルモノナリ故ニ其訴訟手續ノ如キモ專ラ簡易輕便ナラシムルヲ要ス隨テ其旨趣ヲ貫徹スルノ點ニ於テ地方裁判所ニ於ケルト其構成及ヒ訴訟手續ニ付テノ規定ヲ異ニス然レトモ其他ノ點ニ至リテハ同シク第一審ノ訴訟手續トシテ故ラニ地方裁判所ニ於ケルト區裁判所ニ於ケルトニ隨ヒテ差異ヲ設タルノ必要ナク又其理由ナシ是レ第三百七十三條ニ於テ區裁判所ノ通常訴訟手續ニハ裁判所ノ構成其他別段ノ規定ニ依リ差異ヲ生セサル限ハ地方裁判所ニ特別ナル法律ノ規定ヲ適用スヘキ旨ヲ定ムル所以ナリ故ニ以下區裁判所ニ特別ノ規定ヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 區裁判所ノ構成ハ單獨判事ヲ以テス(裁判所構成法第一一條)隨テ區裁判所

ニハ陪席判事アルコトナク判事差支アリテ辯論調書ニ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其裁判所書記ノ署名捺印ノミヲ以テ足レリトス第一三二條又區裁判所判事ハ受命判事ヲ任シテ證據調ヲ爲サシメ又ハ其他ノ取調ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第二 區裁判所カ事物ノ管轄違ナリトシテ訴ヲ却下スルトキハ其判決ニ於テ訴訟ヲ所屬ノ地方裁判所ニ移送スヘキモノトス(第九條)而シテ若シ區裁判所カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ事件ニ付キ判決ヲ爲シタルトキハ其管轄違ヲ理由トシテ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得レトモ其反對ノ場合ニハ不服申立ヲ許サス(第七條)

第三 區裁判所ノ判事ニ對シ忌避ノ申請アリタルトキハ地方裁判所ニ於ケルカ如ク其裁判所ニ於テ忌避ノ申請ニ付テノ裁判ヲ爲スコトヲ得スシテ直近上級ノ地方裁判所其裁判ヲ爲スヘキモノトス(第三六條)

第四 區裁判所ニ於ケル訴訟ニ付テハ辯護士ノアルトキト雖モ訴訟能力アル親族若クハ雇人ヲ以テ訴訟代理人ト爲スコトヲ得(第六三條)

次ニ第二編第二章第一節ニ定ムル特別規定ハ左ノ如シ

第一 訴ノ提起ハ書面即チ訴狀ヲ裁判所ニ提出シテ爲スノ外猶ホ口頭ヲ以テモ爲スコトヲ得若シ原告カ訴狀ヲ提出セテ起訴シタルトキハ裁判所書記ハ之ヲ被告ニ送達スヘキモノトス(第三七四條第三七五條第一項)此他訴狀ニ關スル地方裁判所ノ訴訟ニ付テノ規定ヲ適用スヘキハ勿論ナリ口頭ヲ以テ起訴スルノ方法ニ二種アリ一ハ原告ニ於テ裁判所ニ至リ口頭ヲ以テ其訴ノ要件ヲ陳述シ書記ヲシテ第三百三十五條ノ規定ニ從ヒ調書ニ之ヲ記載セシメ其調書ニ訴訟印紙ヲ貼用スルニ在リ此場合ニ於テハ調書ハ訴狀ノ代用ヲ爲スモノナレハ書記ハ其謄本ヲ作り之ヲ相手方即チ被告ニ送達スヘキモノトス他ノ一ノ方法ハ當事者雙方カ區裁判所ニ於ケル通常ノ裁判日ニ出頭シ直チニ口頭辯論ヲ爲スニ在リ此場合ニハ原告カ被告ノ面前ニ於テ爲シタル口頭演述ヲ以テ訴ノ提起アリタルモノトス(第三七八條)此場合ニハ勿論初ヨリ何等ノ行爲ナク隨テ未タ期日ノ指定ナキニ拘ラス當事者雙方ノ任意ニ口頭辯論ヲ爲スモノナレハ必ス其雙方出頭シテ原告ハ被告ノ面前ニ於テ口頭演述ヲ爲スコトヲ要ス故ニ例ヘハ原

告カ一定ノ申立一定ノ原因等總テ訴ノ要件ヲ陳述シ了ラサル間ニ被告カ退廷スルトキハ原告ニ於テ陳述ヲ繼續スルモ訴訟提起ノ效力ナカルヘシ隨テ此場合ニ於テハ更ニ他ノ方法ニ依リテ訴ヲ提起スルノ外ナキナリ又當事者雙方任意ニ出頭シタルモ辯論ヲ開始セスシテ之ヲ延期シタルトキハ縱令新期日ニ當事者ノ一方カ出頭セサルトキト雖モ關席判決ヲ爲スヘカラス何トナレハ未タ訴訟ハ提起セラレタルモノニアラサレハナリ然レトモ原告カ一旦被告ノ面前ニ於テ訴ノ要件ヲ演述シ了リタルトキハ訴ハ有效ニ提起セラレ且ツ被告ハ既ニ原告ノ事實上ノ供述ヲ聽キテ之ヲ知り得タルモノナレハ爾後辯論ヲ爲サス又ハ退廷スルニ於テハ其實質ヲ被告ノ自白シタルモノト看做シ關席判決ヲ爲スコトヲ得ヘシ

右ノ如ク原告カ被告ノ面前ニ於テ口頭演述ヲ以テ起訴シタルトキハ直チニ權利拘束ヲ生ス何トナレハ被告ハ原告ノ請求ヲ知り得タレハナリ然レトモ訴狀ヲ差出シ又ハ原告ノミ出頭シ口頭陳述ヲ調書ニ記載セシメテ起訴シタルトキハ訴狀又ハ調書ノ謄本ヲ被告ニ送達スルニ因リ始メテ權利拘束ヲ生スルモノト

第二 答辯書其他ノ準備書面ノ交換ハ區裁判所ノ訴訟手續ニ於テハ之ヲ必要トセス其交換ヲ爲スト否トハ當事者ノ同意ナリ而シテ各當事者ハ其申立及ヒ事實上ノ主張ニシテ豫メ通知スルニアラサレハ相手方ニ於テ之ニ對スル陳述ヲ爲スコト能ハサルヘキモノヲ口頭辯論前通知セント欲スルトキハ必スシモ之ヲ書面ニ認メテ裁判所ニ差出シ又ハ調書ニ記載セシメテ相手方ニ送達セシムルニ限ラス裁判所ヲ介セスシテ直接ニ諸般ノ方法ヲ以テ相手方ニ通知スルヲ得ルモノナリ(第三七五條第二項第三七六條)

第三 口頭辯論ノ期日ト訴狀送達トノ間ニハ原則トシテ三日以上ノ期間ヲ存スルコトヲ要シ地方裁判所ニ於ケルカ如ク二十日以上ノ期間ヲ存スルヲ必要トセス而シテ急迫ナル場合ニ於テハ此時間ヲ二十四時マテニ短縮スルコトヲ得但シ外國ニ於テ送達ヲ爲スヘキトキハ距離其他ノ狀況ニ隨ヒ裁判所ニ於テ相當ノ時間ヲ定ムルモノトス(第三七七條又公示送達ヲ爲スヘキトキハ總則第百五十八條ノ規定ニ從ハサルヘカラス)

第四 判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ト雖モ書面ニ基キテ爲スコトヲ要セス單ニ口頭陳述ヲ以テ爲スコトヲ得是レ法律カ訴訟手續ノ簡便ヲ欲シテ訴狀ノ提出及ヒ準備書面ノ交換ヲ必要トセサル以上ハ亦當然ノ結果ト謂ハサルヘカラス又當事者ノ申立及ヒ陳述ハ必ス悉ク之ヲ調書ニ記載スルニ及ハス裁判所ノ意見ニ從ヒ訴訟關係ヲ十分明確ナラシムルニ必要ナリトスルモノノミヲ調書ニ記載スルヲ以テ足レリトス(第三八〇條)

第五 被告ハ適法ニ妨訴ノ抗辯ヲ提出シタルトキト雖モ之ニ基キテ本案ノ辯論ヲ拒ムコトヲ得是レ亦訴訟手續ヲ簡便ニシテノ遅延ヲ防止スルノ目的ニ出テタル規定ニ外ナラス然レトモ裁判所ニ於テハ其抗辯ニ付テノ辯論ヲ本案ノ辯論ト分離シ其抗辯ニ付キ別ニ判決ヲ爲スコトヲ便宜ナリトスルトキハ其職權ヲ以テ辯論ノ分離ヲ命スルコトヲ得隨テ若シ辯論ヲ分離シテ本案ノ判決前ニ妨訴抗辯ヲ棄却スルノ判決アリタルトキハ第二百七條第二項ニ從ヒ其判決ニ對シ獨立ノ上訴ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ

許ササル代リニ妨訴ノ抗辯ハ裁判所ノ管轄違ノ抗辯ヲ除ク外本案ノ辯論前
 同時ニ提出スルコトヲ要セス被告ノ有效ニ拋棄スルコトヲ得ヘキ妨訴ノ抗辯
 ト雖モ尙ホ口頭辯論ノ終結ニ至ルマテ之ヲ提出スルコトヲ得ヘシ唯裁判所管
 轄違ノ抗辯ニ限り地方裁判所ニ於ケルト同一ノ規定ニ從フヘキモノトス即チ
 財產權上ノ請求ニアラサル訴訟又ハ專屬管轄ニ屬スル訴訟ニ於ケル外ハ管轄
 違ノ妨訴ノ抗辯ハ被告ノ有效ニ拋棄スルコトヲ得ルモノナルヲ以テ必ス本案
 ノ辯論ヲ爲ス以前ニ之ヲ提出セサルヘカラス蓋シ右二種ノ訴訟ノ外ハ管轄ニ
 付テノ合意ヲ許シ而シテ其合意ナクシテ原告カ訴ヲ提起シタル裁判所ノ管轄
 違ナル場合ト雖モ被告カ管轄違ノ抗辯ヲ爲サスシテ本案ノ辯論ヲ爲ストキハ
 管轄ニ付テノ暗黙ノ合意アリト看做スコト第三十條ノ規定スル所ノ如クニシ
 テ若シ其本案ノ辯論ヲ爲シタル後ニ於テモ尙ホ管轄違ノ妨訴ノ抗辯ヲ提出ス
 ルコトヲ許サハ同條ノ規定ニ抵觸スルニ至ルヲ以テナリ(第三七九條)

第六 訴ヲ起サントスル者ハ先ツ和解ノ爲メ其請求ノ目的物ヲ開示シテ相手
 方カ普通裁判籍ヲ有スル區裁判所ニ相手方ヲ呼出スヘキコトヲ申立ツルコト

ヲ得而シテ其申立ノ方式ハ或ハ書面ヲ以テシ或ハ口頭ヲ以テスルコトヲ得若
 シ口頭ヲ以テ申立ヲ爲シタルトキハ裁判所書記ハ第百三十五條ノ規定ニ從ヒ
 其調書ヲ作ラサルヘカラス

右和解ノ申立ヲ爲スハ訴ヲ提起スルト異ナリ請求ノ原因ヲ開示スルヲ必要ト
 セス又其事物ノ管轄ハ請求ノ種類及ヒ其目的物ノ價額ノ如何ヲ問ハス區裁判
 所ニ專屬シ土地ノ管轄ハ一般ノ規定ニ從ヒ相手方ノ普通裁判籍ヲ有スル他ノ
 區裁判所ニ屬ス

和解ノ申立アラタルトキハ裁判所ハ期日ヲ定メ當事者ヲ呼出スヘキモノナリ
 而シテ此期日ニ當事者雙方出頭シテ和解ノ調ヒタルトキハ其旨ヲ調書ニ記載
 シテ明確ナラシムヘキモノトス此ノ如クシテ成立シタル和解ハ訴ノ提起後受
 訴裁判所ニ於テ又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ爲シタル和解ト同
 シク所謂裁判上ノ和解ニシテ強制執行ノ名義タルヘキモノナレハ(第五五九
 條)相手方カ任意ニ履行ヲ爲ササルトキハ之ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得
 和解ノ調ヒタルトキハ其費用ハ第七十九條ノ規定ニ依リ別段ノ合意ナキ以上

ニ相消シタルモノト看做サレ各自ノ負擔ニ歸スヘキモノナリ
當事者ハ和解ノ期日ニ出頭セサルモ爲メニ何等ノ不利益ナル推定ヲ受クヘキ
モノニアラス此場合ハ其雙方出頭シタルモ和解ノ調ハナリシ場合ト同シク和
解事件ハ不調ニ歸シタル場合ニ於テハ之カ爲メニ生シタル費用ハ後ニ起ス
ルモ和解ノ不調ニ歸シタル場合ニ於テハ之カ爲メニ生シタル費用ハ後ニ起ス
ヘキ訴訟ノ費用ノ一部ト看做サル隨テ其訴訟ニ付テノ判決ニ於テ總則第七十
二條第七十三條ノ規定ニ從ヒ其負擔ヲ命スヘキモノトス而シテ當事者雙方出
頭シテ和解ノ調ハサルトキハ雙方ノ申立ニ因リ其訴訟ニ付キ直チニ口頭辯論
ヲ爲サシムヘキモノトス此場合ニ於テハ第三百七十八條ノ場合ト同シク訴ハ
原告カ被告ノ面前ニ於テ爲シタル口頭演述ニ依リテ提起セラレ且ツ同時ニ權
利拘束ヲ生スルモノトス但シ其訴訟ニシテ和解裁判所ノ管轄ニ屬セス且ツ合
意上ノ管轄ヲ許ササルモノナルトキハ總令相手方カ管轄違ノ抗辯ヲ提出セザ
ルトキト雖モ其訴ヲ却下スヘキハ勿論ナリ(第三八一條) 二十五條ノ規定ニ從
テ其申立ノ次ニ被告ハ原告ノ管轄ノ規定ニ對シテ口頭辯論ヲ爲シテ其管

第二節 督促手續

凡ソ債務ヲ履行セザル者ハ必スシモ其債務ヲ争フ者ト認テ得ス債務ノ成立
明確ニシテ債務者自ラ之ヲ認メナカラ他ノ事情ノ爲メニ其履行ヲ爲ササルコ
トアルハ吾人ノ日常目撃スル所ナリ此ノ如キ場合ニ債權者カ債務者ニ對シ履
行ノ請求ヲ爲スニ必ス通常ノ訴訟手續ニ依ラサルヘカラストセハ爲メニ無用
ノ時日ト費用トヲ徒費スルニ至ル是レ特ニ明確ナル請求ニ付テハ普通ノ訴訟
手續ニ依ラスシテ最モ簡便迅速ナル手續ニ依リ執行名義ヲ生セシメ以テ債權
者ニ満足ヲ得セシムルヲ目的トスル督促手續ノ規定ヲ生スル所以ナリ督促手
續ハ即チ特定ノ請求ニ付キ債權者ノ申立ニ因リ區裁判所カ債務者ニ對シ條件
附支拂命令ヲ發スル手續ナリ左ニ督促手續ニ關スル事項ヲ説明セシムル
第一ニ督促手續ニ依ルコトヲ得ヘキ請求ノ種類ニ關シテハ民事訴訟法第一
百一十條ノ規定ニ依リテ之ヲ明瞭ナル請求ト爲シタルモノナラサルヘカラス即
チ請求ハ必ス法律カ認メテ明確ナル請求ト爲シタルモノナラサルヘカラス即

一定ノ金額ノ束縛其他ノ代物物若シテ有價證券ニ一定ノ數量ノ給付ノ目的ト爲ス請求是ナリ而シテ其請求ノ原因ハ如何ハ督促手續ニ依ルモノト得ルト否トテ殊ニ何等ノ關係ナシ但シ請求ノ目的物カ一定ノ金額若クハ物ノ數量ノ給付ニ在ルモ債權者ニ於テ債務者ニ對シ己ノ自ラ反對給付ヲ爲ス所アラザルハ其請求ヲ主張スルモノト得ナルトキ又ハ支拂命令ノ送達ヲ外國ニ於テ爲スヘキトキ若クハ公示送達ヲ以テ爲スヘキトキハ督促手續ヲ許サズ故テ其ノ公示送達ニ依リ若クハ外國ニ於テ支拂命令ノ送達ヲ爲スヘキコトノ明白ナルトキノミナラス一旦支拂命令送達ノ手續ヲ爲シタルモ其不能ナリシヨリ更ニ公示送達ニ依リ若クハ外國ニ於テ送達ヲ爲スヘキコトヲ申立タル場合ニ於テモ亦其申立ハ却下セラルヘカラス(第三八二條)

第二 管轄裁判所
督促手續ニ依ル支拂命令ハ常ニ區裁判所ノ發スヘキモノニシテ請求ノ價額如何ヲ問ハス債務者ノ普通裁判所ノ屬スヘキ區裁判所又ハ不動産上裁判籍ニ於テ起訴スルコトヲ得ル請求ニ付テハ其不動産上裁判籍ノ屬スヘキ區裁判所

ニ專屬ス(第三八三條)

第三 申請ノ要件
支拂命令ヲ發スルモノノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得ルモ其申請ハ殆ト訴ヲ提起スルニ等シキヲ以テ左ノ諸件ヲ具備スルヲ要ス(第三八四條)

(一) 當事者及ヒ裁判所ノ表示
(二) 請求ノ一定ノ數額目的物及ヒ原因ノ表示
若シ數額ノ請求ニ付キ同時ニ支拂命令ヲ申請スルトキハ其各箇ニ付キ右ノ事項ヲ表示スルコトヲ要ス

(三) 支拂命令ヲ發セシコトヲ申立
第四 申請却下ノ裁判及ヒ支拂命令
裁判所ハ職權ヲ以テ申請ノ當否ヲ調査シ若シ其申請ノ形式上若クハ實質上不當ナル下キハ之ヲ却下スヘキモノトテ即時請求ノ性質カ督促手續ヲ許サズルトキ又ハ裁判所ノ管轄達ナルトキ又ハ申請ノ要件ヲ具備セサルトキハ勿論縱令申請ノ形式上適法ナルトキト雖モ其旨趣ニ依レテ請求方實體上理由ナキト

キ又ハ現ニ理由ナキコトノ顯ハルルトキハ其申請ヲ却下スヘキモノトス又一箇ノ請求ノ一分ノミ理由アリテ他ノ一分ノ理由ナキトキハ之ヲ分割シテ其理由アル一分ニ付テ支拂命令ヲ發スルコトヲ許サス全部ニ付テ其申請ヲ却下スヘキモノナリ然レトモ數箇ノ請求ニ付キ支拂命令ノ申請ヲ爲シタル場合ニ其中ノ或請求ハ理由ナクシテ他ノ請求ハ理由アリト見ユルトキハ其理由ナキ請求ノミニ付キ申請ヲ却下シ他ノ理由アリト見ユル請求ニ付テハ申請ヲ許容シテ支拂命令ヲ發スヘキモノトス

申請却下ノ裁判ニ對シテハ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス然レトモ單ニ其申請ノ形式上ノ欠缺ニ基キ却下セラレタル場合ノ如キハ再ヒ其申請ヲ爲スコトヲ得ルノミナラス總テノ場合ニ於テ通常ノ訴訟手續ニ依リ別ニ訴ヲ以テ其請求ヲ主張スルコトヲ妨ケス(第三八五條) 又、（第三八四條） 申請カ適法ニシテ理由アリト見ユルトキハ別ニ之ヲ許可スル旨ヲ裁判ヲ爲サス又豫メ債務者ヲ審訊スルコトナクシテ直チニ支拂命令ヲ發スヘキモノナリ(第三八六條第一項)是レ督促手續ノ目的簡便迅速ヲ主トスル上ニ於テ固ヨリ當

然ナルノミナラス債務者ハ支拂命令ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ豫メ債務者ヲ審訊スルノ必要ヲ見タルナリ 又、（第三八四條） 支拂命令ニハ左ノ記載ヲ要ス(第三八六條第二項) 一、當事者及ヒ裁判所ノ表示並ニ請求ノ一定ノ數額目的物及ヒ原因ノ表示 此事項ハ固ヨリ債務者ニ知ラシムル必要アリ債務者若シ之ヲ知ラサレハ債權者ノ請求ノ當否ヲ知ルコト能ハス隨テ異議ノ申立ヲ爲スヘキヤ否ヤヲ決定スルコト能ハサレハナリ

(二) 債務者ニ於テ即時ノ強制執行ヲ避ケント欲セハ此命令送達ノ日ヨリ十四日ノ期間内ニ債權者ノ請求ヲ満足セシメ且ツ其手續ノ費用トシテ定メタル金額ヲ債權者ニ辨済スヘク又ハ裁判所ニ異議ヲ申立ツヘキ旨ノ債務者ニ對スル命令 是レ即チ條件附命令ニシテ若シ此期間内ニ債務者カ辨済ヲ爲サス又異議ヲモ申立テナルトキハ假執行ノ宣言ヲ付シタル調席判決ト同一ノ效力ヲ執行命令ニ因リ強制執行ヲ受クヘキ旨ヲ告知スルモノナリ右ノ期間ハ申立ニ因リ手形

上ノ請求ニ付テハ二十四時間ヲテモ其他ノ請求ニ付テハ三日間ヲテ短縮スルコトヲ得(第三八六條)第三項督促手續ノ費用ハ裁判所ニ於テ其數額ヲ定メ之ヲ支拂命令中ニ記載スヘキモ右ノ規定ニ依リテ明カナリシ債權者ハ異議ヲ支拂命令ハ之ヲ債務者ニ送達スヘキモノトス而シテ請求ノ權利拘束ハ此送達ヨリ始マルヲ以テ爾後債權者カ更ニ同一ノ請求ニ付キ訴ヲ提起シタルトキハ債務者ハ權利拘束ノ抗辯ヲ爲スコトヲ得ヘク又支拂命令ニ對スル異議申立ノ期間ハ同シク其送達ノ日ヨリ起算スヘク隨テ債權者カ第三百九十三條ニ依リ執行命令ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル時期ニ到リタルヤ否ヤヲ知ルニモ必要ナルヲ以テ其送達ヲ爲シタルトキハ之ヲ債權者ニ通知セザルベカラス(第三八七條)第五 支拂命令ニ對スル異議

債務者ハ支拂命令ニ對シ命令中ニ掲ケタル期間ニ書面又ハ口頭ヲ以テ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得(第三八八條)此期間内ハ所謂法律上ノ期間ニシテ命令後之ヲ短縮シ又ハ伸長スルコトヲ許サズ果シテ然ラハ此期間ノ經過後ハ債務者ニ於テ絶對ニ異議ノ申立ヲ爲スニ付テ得ザルヤ如何今第三百九十三條第三項ノ規

定スル所ニ據ヒテ裁判所ノ該期限ノ經過後債權者ノ申立ニ因リ執行命令ヲ以テ支拂命令ニ對シ執行ノ宣言ヲ付スヘキモノトモ向ホ其條件トシテ假執行ノ宣言前ニ債務者ノ異議申立ヲ爲ス必要トセリ若シ右期間ノ經過シタル後ニ於テハ絶對ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ許サザルモノトモハ異議ノ申立ヲシテ期間ノ經過シタルコトヲ假執行ノ宣言ヲ爲スニ付テノ必要條件トスルノ外尙ホ其宣言前ニ異議ノ申立ヲキモトフ一ノ要件ト爲スノ必要ナシ是ニ由リテ之ヲ觀シハ該期間ノ經過後尙ホ裁判所ノ假執行ニ對シテ假執行ノ宣言ノ申請ヲ爲スルヤ否ニ未タ其宣言ナキ間ハ債務者ハ支拂命令ニ對シテ有效ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルモノト斷定セザルベカラス故ニ第三百九十五條ニ所謂時期ニ後レタル異議ノ申立トハ右ノ期間經過後ニ爲シタルモノヲ謂フニアラスシテ執行命令ニ依リテ假執行宣言後ニ爲シタル異議申立ト解スヘク即チ此假執行宣言後ニ申立テタル異議ノモテ時期ニ後レタルモノトシテ却下スヘキモノナリ異議ノ申立ヲ却下スル裁判所ニ對シテハ不服ノ申立ヲ許サス(第三百九十五條)第二項蓋シ其時期ニ後レタルヤ否ヤハ裁判所ニ於テ容易ニ知ルコトヲ得ヘク書

通其判斷ヲ誤ルカ如キコトナキノミナラス執行命令ニ對シテハ後ニ違フルカ如ク故障ノ申立ヲ爲スノ途アルヲ以テ專ロ却下ノ命令ニ對シテハ簡易手續ノ目的ヲ達スル上ニ於テ不服申立ヲ許ササルヲ可トスレハナリトスルハ適當ナル時期ニ支拂命令ニ對シテ申立タル債務者ノ異議ハ其效果トシテ支拂命令ノ效力ヲ失ハシム隨テ債權者ハ最早支拂命令ニ基キ執行命令ヲ求ムルヲ得ナルヲ以テ更ニ訴ニ依リテ其請求ヲ主張セタルヘカラサルニ至ル是レ支拂命令ノ性質ハ元來條件附ノモノタルニ由ル故ニ支拂命令ニ對スル異議ノ申立ハ督促手續ヲ完結セシムルモノト謂フモ可ナリ而シテ其異議ノ申立ハ請求ノ全部ニ對シテ爲シタルト其一分ニ對シテ爲シタルトヲ問ハス常ニ支拂命令全部ノ效力ヲ失ハシム然レトモ數箇ノ請求ニ付キ同時ニ支拂命令ヲ申請シタル場合ニ於テ其中ノ或モノニ對シテノミ異議ノ申立アリタルトキハ其他ノ異議ナキ請求及ヒ之ニ相當スル費用ノ部分ニ關シテハ支拂命令ハ依然其效力ヲ保有ス隨テ債權者ハ此異議ナキ請求及ヒ之ニ相當スル費用ニ付テハ執行命令ヲ求ムルコトヲ得ルナリ(第三八九條)

右ノ如ク適法ノ異議申立ハ支拂命令ノ效力ヲ失ハシムルモノトモハ之ニ因リテ生シタル權利拘束モ亦自ラ消滅ニ歸スヘキハ理論上當然アレトモ法律ハ便宜上一旦支拂命令ノ送達ニ因リテ生シタル權利拘束ヲ尙ホ存續セシメ而シテ其請求ニ付キ起スヘキ訴カ區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキトキハ前ニ爲シタル支拂命令ノ送達ト同時ニ既ニ其訴ヲ區裁判所ニ提起シタルモノト看做ス故ニ此場合ニ於テハ其訴ノ屬スル區裁判所ハ前述第三百七十七條ノ規定ニ從ヒ口頭辯論ノ期日ヲ定メ當事者ヲ呼出シ以テ其訴訟ヲ完結スヘキモノトス(第三九〇條)若シ右ニ反シ請求ニ付キ起スヘキ訴カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノナルトキハ異議ノ申立ヲ受ケタル區裁判所ハ適當ナル時期ニ異議ノ申立アリタルコトヲ債權者ニ通知スヘキモノトス而シテ債權者ハ其通知書ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ起算シ一箇月ノ期間内ニ於テ別ニ管轄地方裁判所ニ起訴セザルヘカラス若シ此期間内ニ債權者カ訴ヲ起サザルトキハ支拂命令ノ送達ニ因リテ生マタル權利拘束ハ消滅シ債權者ハ督促手續ノ費用ヲ負擔セザルヘカラス(第三九一條、第三九二條)

適法ノ異議ノ申立アリタルトキハ當然區裁判所ニ於テ訴訟ト爲ルヘキ場合ト
 債權者ニ於テ別ニ地方裁判所ニ起訴スヘキ場合トテ間ハ督促手續ニ要シタ
 ル費用ハ訴訟費用ノ一分ト看做ササルヲ以テ其訴訟ニ付テノ終局判決ニ於テ
 第七十二條第七十三條ノ規定ニ從ヒ其負擔ヲ定ムヘキモノナリ(第三九二條第
 一項石ノ場合ニ於ケル訴訟物ノ權利拘束ハ既ニ支拂命令ノ送達ニ因リテ生
 爾後訴訟ニ至ルマテ存續スルモノナルヲ以テ其訴ヲ管轄スヘキ裁判所ノ何
 タルハ支拂命令ヲ送達シタル當時ノ情況ニ從ヒテ之ヲ定メサルヘカラス故ニ
 支拂命令送達ノ當時土地及ヒ事物ノ管轄カ其命令ヲ發シタル區裁判所ニ屬ス
 ルトキハ異議申立ノ際ニ至リテ債務者カ住所ヲ移轉シ又ハ訴訟物ノ價額カ増
 加シテ百圓ヲ超過スルニ至ルモ爲メニ其管轄ニ變動ヲ來スコトナク又支拂命
 令送達ノ當時事物ノ管轄カ地方裁判所ニ屬スルトキハ異議申立ノ後起訴ノ當
 時ニ訴訟物ノ價額カ減少シテ百圓以下ニ下ルモ仍ホ其訴ハ之ヲ地方裁判所ニ
 提起セサルヘカラス土地ノ管轄ニ付テモ亦同シク支拂命令送達後ニ於テ債務
 者カ住所ヲ轉スルモ仍ホ支拂命令送達ノ當時ニ於ケル債務者ノ住所ノ地ヲ管

轄スル地方裁判所ヲ以テ管轄裁判所ト爲ササルヘカラス
 支拂命令ノ送達ニ因リテ生シタル權利拘束ノ效力ハ蓋ニ違ヘタルカ如ク異議
 ノ申立アリタルカ爲メ起スヘキ訴カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ場合ニ於テ
 債權者カ異議申立ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ一箇月ノ期間内ニ訴ヲ起ササルト
 キハ當然消滅スルノミナラス支拂命令申請ノ取下ニ因リテモ亦消滅スヘキモ
 ノトス但シ支拂命令ニ對スル異議ノ申立又ハ執行命令ニ對スル故障ノ申立ア
 リテ訴訟ト爲リ被告カ本案ノ辯論ヲ始メタル以後ハ第九十八條ノ規定スル
 如ク其承諾ヲ得ルニアラザレハ取下ヲ爲スコトヲ得サルハ勿論ナリ右何レノ
 場合ニ於テモ權利拘束ノ效力カ消滅シタルトキハ支拂命令ハ時效中斷ノ效ヲ
 生セザルハ民法第百五十條ノ明カニ規定スル所ノ如シ
 第六 執行命令
 債務者カ支拂命令ノ送達ヲ受ケテ辨濟ヲ爲サヌ又異議ノ申立ヲモ爲サヌシテ
 命令中ニ掲ケタル期間ヲ徒過シタルトキハ債權者ハ其假執行ノ宣言ヲ裁判所
 ニ申請スルコトヲ得然レドモ債務者ハ右期限經過後ト雖モ未タ假執行ノ宣言

ナキ以上ハ有效ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ裁判所ハ債權者ノ申請
 ナリテ且テ異議申立ノ期間ヲ經過シタルコトヲ認メタルトキト雖モ尙ホ現
 債務者ノ異議申立アルヤ否キヲ調査セザルヘカラス而シテ其申立ナキトキニ
 限リ假執行ノ宣言ヲ付スヘキモノトス假執行ノ宣言ハ支拂命令ニ執行命令ヲ
 付シテ之ヲ爲ス執行命令ニハ便宜上債權者ノ爲シタル計算ニ依リ手續ニ要シ
 タル費用ヲモ附記シテ本案ノ請求ト同時ニ執行セシム若シ假執行ノ宣言ヲ爲
 スノ條件具備セスト認メタルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ債權者ノ申請ヲ却下
 スヘキモノトス但シ此却下ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得第三九
 三條

執行命令ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル關席判決ト同一ノ效力ヲ有ス隨テ一面ニ
 於テハ債權者ハ之ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得又一面ニ於テハ債務者ハ
 之ニ對シテ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ其強制執行ヲ爲スニ付テハ固ヨリ第
 五百六十條第五百二十八條ノ規定ニ從ヒ之ヲ債務者ニ送達スルヲ必要トスル
 モ通常ノ場合ニ於テハ更ニ執行文ヲ付與ラ受ケルヲ要セス是レ其性質執行文

ノ意義ヲ包含スルヲ以テナリ唯債務者又ハ債權者ニ於テ承繼アル場合ニ限リ
 執行文ノ付與ヲ必要トス(第五六一條第一項)又執行命令ニ對スル故障ハ其申立
 ノ方式期間效果其他ニ至ルマテ總テ曩ニ説明シタル第二百五十五條乃至第二
 百六十四條ノ規定ニ從フヘキモノナリ但シ其故障ハ訴訟カ區裁判所ノ管轄ニ
 屬スヘキモノナルト地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノナルトヲ問ハス常ニ執
 行命令ヲ發シタル區裁判所ニ爲スヘキモノトス而シテ請求ノ性質上訴カ區裁
 判所ニ屬スヘキモノナルトキハ故障ヲ受ケタル區裁判所ハ期日ヲ定メテ口頭
 辯論ヲ開キ先ツ故障ノ當否ヲ審査シ之ヲ適法ナリトスルトキハ直チニ本案ニ
 付キ口頭辯論ヲ經テ判決ヲ爲スヘキモノナリト雖モ若シ其訴訟カ地方裁判所
 ノ管轄ニ屬スヘキモノナルトキハ故障ヲ受ケタル區裁判所ハ本案ノ判決ヲ爲
 スノ權限ナキヲ以テ單ニ其故障ノ適法ナルヤ否ヤ即チ之ヲ法律上ノ方式及ヒ
 期間ニ於テ申立テタルヤ否ヤノ點ノミニ付キ辯論ヲ經テ裁判ヲ爲スヘキモノ
 トス此場合ニ於テ爲シタル故障ヲ適法トスル判決ハ執行命令前支拂命令ニ對
 シ債務者カ異議ヲ申立テタル場合ト同一ノ程度ニ復セシメ執行命令ノ效力ヲ

民事訴訟法第二編目次

民事訴訟法第二編

皇學士 益 藤 津 大 編 註

三十三學期編註

民事訴訟法第二編目次

第二編 第一審ノ訴訟手續	一
第一章 地方裁判所ノ訴訟手續	二
第一節 訴	二
第一款 訴ノ方式	六
第二款 訴ノ效力	一五
第三款 訴ノ取下	四九
第四款 反 訴	五九
第二節 準備書面ノ交換	六九
第三節 口頭辯論	七四
第一款 妨訴ノ抗辯	七七
第二款 本案ノ辯論	九六
第四節 證據調	一〇四

民事訴訟法第二編目次

第一款 總論	一〇四
第一項 證據	一〇四
第二項 舉證ノ責任	一〇九
第三項 證據調ノ通則	一一六
第二款 證據方法	一三〇
第一項 人證	一三〇
第二項 鑑定	一六六
第三項 書證	一七七
第四項 檢證	二〇五
第五項 當事者本人ノ訊問	二〇八
第三款 證據保全	二一二
第五節 判決	二一八
第一款 一般ノ判決ニ關スル通則	二二〇
第二款 判決ノ種別	二四四

第六節 準備手續	二八四
第二章 區裁判所ノ訴訟手續	二九一
第一節 通常ノ訴訟手續	二九二
第二節 督促手續	三〇一

民事訴訟法第二編目次

第二章 離婚ノ手續
 第六節 協議離婚ノ手續
 第一項 協議離婚ノ手續
 第二項 協議離婚ノ手續
 第三項 協議離婚ノ手續
 第四項 協議離婚ノ手續
 第五項 協議離婚ノ手續
 第六項 協議離婚ノ手續
 第七項 協議離婚ノ手續
 第八項 協議離婚ノ手續
 第九項 協議離婚ノ手續
 第十項 協議離婚ノ手續

口頭ヲ以テスル届出ノ手續ニ付テハ書面ヲ以テスル届出ノ手續ヲ準用スヘキモノトス(第一一二條)

(第三) 届出ノ受理

- (一) 裁判外ノ離婚ノ場合ニ在リテハ戸籍吏ハ離婚カ前第一ノ(三)ニ掲ケタル要件ヲ具備スルコト及ヒ戸籍法其他ノ法令ニ違反セザルコトヲ認メタル後ニアラサレハ届出ヲ受理スルコトヲ得ス(民法第八一一條第一項然レトモ離婚カ要件ヲ具備セズ又ハ法令ニ違反シタル場合ト雖モ戸籍吏カ其届出ヲ受理シタルトキハ離婚ノ效力ヲ生ス(民法第八一一條第二項)
- (二) 裁判上ノ離婚ノ場合ニ在リテハ戸籍吏ハ離婚ヲ宣言シタル判決カ確定シタルコトヲ認メタル後ニアラサレハ届出ヲ受理スルコトヲ得ス
- (三) 戸籍吏カ不當ニ届出ヲ受理セザルトキハ届出人ハ抗告ヲ爲スヲ得

第九節 後見ニ關スル届出

(第一) 總論

(一) 本節ニ於テハ後見ニ關スル届出ノ手續即チ戸籍法第四章第九節ヲ説明ス

(二) 後見ハ左ノ場合ニ於テ開始ス(民法第九〇〇條)

第一 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者ナキトキ(甲) 未成年者ノ家ニ其父母ナキトキ(乙) 親權ヲ行フ父又ハ母アリタルモ親權喪失ノ宣告民法第八九六條ヲ受ケタル爲メ親權ヲ行フ者ナキニ至リタルトキヲ謂フ

第二 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セザルトキ(甲) 親權ヲ行フ父又ハ母カ管理權喪失ノ宣告ヲ受ケタル爲メ管理權ヲ行フ者ナキニ至リタルトキ(乙) 民法第八九七條(乙) 親權ヲ行フ母カ管理權ヲ辭シタルトキ(民法第八九九條)ヲ謂フ

第三 禁治産ノ宣告アリタルトキ(心神喪失ノ常況ニ在ル者ニ對シ禁治産ノ宣告アリタルトキ(民法第七條)ヲ謂フ

後見カ開始シタルトキハ其未成年者又ハ禁治産者ノ爲メニ一人ノ後見人アルコトヲ必要トス(民法第九〇六條)後見人ノ權利及ヒ權限ニ付テハ民法第一編第一

章第二節及ヒ同法第四編第六章第三節等ヲ參照ス(ヘシ)

(三) 後見人ト爲ルコトヲ後見人ノ就職ト謂フ後見人ノ就職ニ四種アリ

第一 法律ノ規定ニ因ル就職(民法第七百九十一條第九百二條又ハ第九百三條ノ規定ニ因リ當然後見人ト爲ルヲ謂フ)

第二 未成年者ニ對シ最後ニ親權ヲ行フ者ノ指定ニ因ル就職(未成年者ニ對シ最後ニ親權ヲ行フ者ハ民法第九百一條ニ從ヒ遺言ヲ以テ其未成年者ノ後見人ヲ指定スルコトヲ得此場合ニ於テ遺言者カ死亡スルトキハ指定セラレタル者ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ後見人ト爲ル)

第三 親族會ノ選任ニ因ル就職(前第一又ハ第二ニ因ル法定又ハ指定ノ後見人ナキトキハ後見人ハ未成年者又ハ禁治産者ノ親族會之ヲ選任ス(民法第九〇四條))

第四 裁判所ノ選任ニ因ル就職(親族會カ後見人ヲ選任スベキ場合ニ於テ選任ノ決議ヲ爲スコト能ハサルトキハ未成年者又ハ禁治産者ノ住所地方ノ裁判所ハ親族會員ノ申請ニ因リ後見人ヲ選任ス(民法第九五二條)非訟事件

戸籍法 親族會議 身分二編又ハ親屬

一九五

之ヲ要スルニ後見人ハ法律ノ規定遺言者ノ死亡若クハ親族會又ハ裁判所ノ權任ニ因リ就職スルモノニシテ後見人ト爲ルヘキ者ヲ就職ヲ承諾スルニ因リ後見人ト爲ルニアラス

(四) 後見終了前ニ後見人カ死亡シ又ハ辭任其他ノ事由ニ因リ其責務ヲ喪失シ(民法第九〇七條第九〇八條タルトキハ更ニ後見人ヲ設クルコトヲ要ス)

(五) 未成年者ノ後見ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス
第一 未成年者カ成年ニ達シタルトキ
第二 未成年者カ死亡シタルトキ
第三 親權ヲ行フ父又ハ母アルニ至リタルトキ
第四 親權喪失ノ宣告ヲ受ケタル父又ハ母ニ對シ其宣告ヲ取消アリタルトキ(民法第八九八條若クハ他家ニ在リタル父又ハ母カ未成年者ノ家ニ入りタルトキノ如キ是ナリ)

第四 管理權喪失ノ宣告ヲ受ケタル親權者ニ對シ其宣告ヲ取消アリタルトキ
キ 民法第八九八條ヲ參照スヘシ

禁治産者ノ後見ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

第一 禁治産者カ死亡シタルトキ

第二 禁治産ノ宣告ヲ取消シタルトキ(民法第一〇條)

(六) 後見ニ關スル届出ニ三アリ後見開始ノ届出後見人更迭ノ届出及ヒ後見人ノ任務終了ノ届出是ナリ以上三種ノ届出ハ何レモ既ニ發生シタル事實ヲ公示スル爲メノ身分登記ヲ爲ス爲メ公法上ノ義務トシテ爲サシムル届出ナリ

(第二) 後見開始ノ届出

(一) 後見開始シ後見人カ就職シタルトキハ其後見人ハ就職ノ日ヨリ十日内ニ後見開始ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス(第一一四條)

(二) 後見開始ノ届出ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス同上
一 後見人ノ氏名出生ノ年月日職業本籍地及ヒ住所
二 被後見人ノ氏名出生ノ年月日職業及ヒ本籍地
三 被後見人トハ後見ニ付セラレタル未成年者又ハ禁治産者ヲ謂フ

- 三 被後見人カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名職業及ヒ本籍地
 - 四 後見開始ノ原因及ヒ年月日 後見開始ノ原因ニ付テハ前第二ノ(二)ヲ參照スヘシ後見開始ノ原因カ禁治産ノ宣告ナルトキハ後見開始ノ年月日ハ其宣告アリタル日ニアラスシテ其宣告カ效力ヲ生シタル日ナリ(人事訴訟手續法第五二條)
 - 五 後見人就職ノ年月日 後見人就職ノ年月日トハ後見人ト爲リタル日ヲ謂フ後見人ト爲リタルコトヲ知リタル日又ハ後見ノ事務ニ著手シタル日ヲ謂フニアラス後見人就職ノ年月日トハ後見開始ノ年月日トハ同シキコトアリ異ナルコトアリ
- (注意) 親權ニ服スル未成年者ニ對シ禁治産ノ宣告アルトキハ親權ヲ行フ者ハ當然後見人ト爲ル(民法第九〇二條此等ノ場合ニ在リテハ親權ヲ行フ者ハ禁治産ノ宣告カ效力ヲ生スルト同時ニ後見人ト爲ルカ故ニ後見開始ノ年月日トハ後見人就職ノ年月日トハ相同シ
- (一) 後見開始ノ年月日トハ後見人就職ノ年月日トハ相同シ
 - (二) 後見人就職ノ年月日トハ後見開始ノ年月日トハ相同シ
 - (三) 第三ノ場合ニ在リテハ後見開始後親族會カ後

- 二 見人ヲ選任スルモノナルカ故ニ後見人就職ノ日ハ後見開始ノ日ニ選ル
- (第三) 後見人更迭ノ届出
- (一) 後見開始後其終了前ニ後見人カ其資格ヲ喪失シ他ノ者ヲ新ニ後見人ト爲ラタルトキハ(前第二ノ(四)參照新任ノ後見人ハ其就職ノ日ヨリ十日内ニ後見人更迭ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス(第一一五條)
- (二) 後見人更迭ノ届出ニハ左ノ證件ヲ記載スルコトヲ要ス(同上)
 - 一 前任後見人ノ氏名
 - 二 新任後見人ノ氏名出生ノ年月日職業本籍地及ヒ住所
 - 三 被後見人ノ氏名出生ノ年月日職業及ヒ本籍地
 - 四 被後見人カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名職業及ヒ本籍地
 - 五 後見開始ノ原因及ヒ年月日
 - 六 新任後見人就職ノ年月日
- (第四) 後見人ノ任務終了ノ届出
- (一) 後見人ノ任務ノ終了トハ後見人タル資格ノ喪失ヲ謂フ後見人ノ任務ハ左

「場合ニ於テ終了ス

ハ後見人ノ資格ノ喪失ヲ指シテハ

第一 後見ノ終了前第二ノ(五)參照

第二 後見ノ終了前ニ後見人カ死亡辭任其他ノ事由ニ因リ其資格ヲ喪失シ

タルトキ(前第二ノ(四)參照)此場合ニ在リテハ後見ハ未ダ終了セザルカ故

ニ新ニ後見人ヲ設ケタルコトヲ要ス隨テ前任ノ後見人又ハ後見監督人ハ前

任後見人ノ任務終了ノ届出ヲ爲スコトヲ要シ後任ノ後見人ハ前第二ニ説

明シタル後見人更迭ノ届出ヲ爲スコトヲ要スルモノトス

(二) 後見人ノ任務終了ノ原因カ其死亡ナルトキハ後見監督人民法第九一〇條

以下ニ後見人死亡ノ日ヨリ十日内ニ後見人任務終了ノ届出ヲ爲スコトヲ要シ

後見人ノ任務終了ノ原因カ他ノ事由ナルトキハ後見人タリシ者ハ任務終了ノ

日ヨリ十日内ニ其任務終了ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス第一一七條)ハ後見人

(三) 後見人任務終了ノ届出ニハ左ノ條件ヲ記載スルコトヲ要ス(同上)見

一 被後見人ノ氏名出生ノ年月日職業及ヒ本籍地

二 任務ヲ終了シタル後見人ノ就職ノ年月日

三 任務終了ノ原因及ヒ年月日

第五 通則

(一) 後見ニ關スル届出ハ被後見人ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコ

トヲ要ス(第一一八條) 又ハ其本籍地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

(二) 前第二又ハ前第三ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テ就職シタル後見人カ遺言ヲ以テ

指定セラレタル者ナルトキハ届書ニ其指定ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコト

ヲ要シ親族會ニ於テ選任セラレタル者ナルトキハ届書ニ其選任ニ關スル證書

ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス(第一一六條)次ニ裁判所カ選任シタル後見人ニ付テ

ハ別段ノ規定ナシト雖モ届書ニ其選任ノ裁判ノ謄本ヲ添フルヲ相當トス(第一

三) 後見ニ關スル届出ハ被後見人ノ代理人トシテ届出ツルニアラス後見人又

ハ後見監督人ノ地位ニ在ル者又ハ在リタル者カ自己ノ公法上ノ義務トシテ届

出ヲヘキモノトス

(四) 後見ニ關スル届出ハ就職又ハ任務終了ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スヲ要ス

ルコトハ既ニ述ヘタリ然ルニ届出義務者カ十日内ニ就職又ハ任務終了ノ事實

ヲ知ルヲ得タルコトヲキムアラハ戸籍法カ届出義務者カ就職又ハ在務修訂ノ事實ヲ知リタル日ヲ以テ届出期間ヲ始期ト爲サラシムル旨ニ失ス

第十節 隠居ニ關スル届出

(第一) 總論

- (一) 本節ニ於テハ隠居ニ關スル届出即チ戸籍法第四章第十節ノ規定ヲ説明ス
- (二) 隠居ハ戸主權喪失ノ原因ノ一ナリ戸主ハ左ニ掲ケル條件ノ具備スルニ非

ズレバ隠居ヲ爲スコトヲ得ス(戸主權喪失ノ原因ニ付テハ民法第九百六十四條參照)

- 一 滿六十年以上ナルコト但シ女戸主ニ付テハ年齢ノ制限ナシ
- 二 完全ノ能力ヲ有スル家督相続人ヲ相続ノ單純承認民法第一〇二三條ヲ爲スコト
- 三 有夫ノ女戸主ニ在リテハ其夫ノ同意アルコト

然レトモ戸主カ疾病本家ノ相続又ハ再興其他已レ得テ事由ニ因リテ爾後家政ヲ執ルコト能ハサルトキ若クハ戸主カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ラント欲スルトキハ前ニ掲ケタル條件ヲ具備セサル場合ト雖モ裁判所ノ許可ヲ得テ隠居ヲ爲スコトヲ得但シ法定ノ推定家督相続人アラサルトキハ豫メ家督相続人タルヘキ者ヲ指定シ其者ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス(以上ニ付テハ民法第七五二條乃至第七五五條ヲ參照スヘシ)

(三) 隠居ハ隠居者及ヒ其家督相続人ヨリ之ヲ戸籍吏ニ届出スルニ因リテ效力ヲ生スルコトハ民法第七百五十七條ノ規定スル所ナリ蓋シ隠居者ハ此届出キ依リテ隠居ヲ爲スノ意思ヲ表示スルコトヲ要シ家督相続人ハ之ニ依リテ相続承認ノ意思表示ヲ爲スヲ要スルコトト爲シタルナリ

然ルニ既ニ述ヘタル如ク法定ノ推定家督相続人アル戸主カ裁判所ノ許可ヲ得テ隠居ヲ爲ス場合ニ在リテハ其家督相続人ノ承認ヲ得ルコトヲ要件トセザルカ故ニ此場合ニ限り隠居者ノミヨリ届出ヲ爲セバ隠居ノ效力ヲ生ズト解釋スルヲ正シトス

〔注意〕 若シ此場合ニ於テモ隠居者ハ家督相續人ト共ニ届出ヲ爲スコトヲ要ストスレバ家督相續人カ共ニ届出ヲ爲スコトヲ欲セザルカ如キ場合ニ在リテハ其承認ヲ得ルコトハ隠居ノ要件ニアラザルニ拘ラス隠居者ハ之カ爲メ隠居ヲ爲スコト能ハサルコトト爲ル旨届出人ニ其旨ヲ具申シテ之ヲ得ル旨戸籍吏カ隠居ノ届出ヲ受理シタルドギバ隠居カ前(二)ニ掲ケタル要件ヲ具備セザル場合ト雖モ其效力ヲ生ス(民法第七五七條、第七五八條)

(四) 戸籍吏カ隠居ノ届出ヲ受理シタル場合ニ於テ隠居カ前(二)ニ掲ケタル要件ヲ具備セザルトキハ民法第七五八條ニ掲ケタル者ハ隠居取消ノ訴ヲ規定スルコトヲ得ヘク隠居者又ハ家督相續人カ詐欺又ハ強迫ニ因リテ隠居ノ届出ヲ爲シタルトキハ民法第七五九條ニ掲ケタル者ハ隠居取消ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ヘキモノトス此訴ノ手續ニ付テハ人事訴訟手續法第二章ヲ参照スヘシ

隠居ハ裁判所ノ判決ニ因ル外取消サルルコトナシ

(第二) 隠居ノ届出

(一) 隠居ハ隠居ヲ爲サント欲スル者及ヒ其家督相續人ヨリテ之ヲ届出ツルコト

ヲ要ス但シ家督相續人ノ承認ヲ得ルコトヲ要件トセザル場合ニ在リテハ隠居ヲ爲サント欲スル者ノミヲ以テ届出人トス

〔注意〕 法定ノ推定家督相續人ナキ者カ裁判所ノ許可ヲ得且ツ豫メ家督相續人ト爲ルヘキ者ヲ指定シ其者ノ承認ヲ得テ隠居ヲ爲ス場合ニ在リテハ指定ノ家督相續人ハ完全ノ能力者タルコトヲ必要トセス然ルニ無能力者ノ法定代理人ハ之ニ代リテ相續ヲ承認シ又ハ拋棄スルコトヲ得ル者ナルカ故ニ若シ指定ノ家督相續人カ無能力者ナルトキハ其法定代理人ハ之ニ代リテ承認ヲ爲スコトヲ妨ケス而シテ法定代理人カ代リテ承認ヲ爲ス場合ニ在リテハ其者ハ無能力者ノ代理人タル資格ニ於テ隠居者ト共ニ届出ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス

(二) 隠居ノ届出ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス(第一一九條)

- 一 隠居者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 家督相續人ノ名、出生ノ年月日、職業及ヒ家督相續人ト隠居者トノ續柄
- 三 隠居ノ原因、民法第七五十三條ニ掲ケタル事由ニ因リタル隠居ニ在

三 リテハ其旨ヲ記載スルヲ要スルカ如キ是ナリ
 (三) 裁判所ノ許可ヲ得テ隠居ヲ爲ス場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ許可ノ裁判
 ノ原本ヲ添フルコトヲ要ス(第一二〇條)
 (四) 家督相続人ノ承認ヲ得ルコトヲ要スル場合ニ在リテハ届出人ハ届出ニ家
 督相続人ノ承認ノ證書ヲ添へ又ハ承認ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ其旨ヲ附記
 シ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス(第一二一條第一項)
 (注意) 家督相続人ノ承認ヲ得ルコトヲ要スル場合ニ在リテハ隠居ハ隠居者
 及ヒ家督相続人ヨリ届出シタルコトヲ要スルコトハ既ニ述ベタリ然ルニ家督
 相続人カ單ニ届出人トシテ届書ニ署名捺印スルノミニテハ果シテ承認ヲ爲
 ス意思アルヤ否ヤ明確ナラザル據アルカ故ニ家督相続人ハ届出人トシテ署
 名捺印スル外尙ホ承認ノ證書ヲ添へ又ハ其旨ヲ届書ニ附記スルコトヲ要ス
 ルコトト爲シタルモノナルヘシ(那覇區裁判所判事ノ問合ニ對スル明治三十
 二年三月二十八日附民刑局長回答參照)
 次ニ有夫ノ女戸主カ隠居ヲ爲ス場合(前第一ノ(二)參照ニ在リテハ届出人ハ届書

ニ 隠居者ノ夫ノ同意ノ證書ヲ添へ又ハ夫ヲシテ届書ニ其旨ヲ附記シ之ニ署名
 捺印セシムルコトヲ要スルモノトス(第一二一條第二項)
 (五) 隠居ノ届出ハ隠居ノ效力ヲ生セシムル爲メニ爲ス届出ナリ既ニ效力ヲ生
 シタル隠居ニ付キ之ヲ公示スル爲メ公法上ノ義務トシテ爲サシムル届出ニア
 ラズ
 (六) 戸主カ隠居ヲ爲サスシテ婚姻ニ因リ他家ニ入ラント欲スル場合ニ於テ戸
 籍吏カ婚姻ノ届出ヲ受理シタルトキハ其戸主ハ婚姻ノ日ニ於テ隠居ヲ爲シタ
 ルモノト看做サル(民法第七五四條第二項此場合ニ在リテハ隠居ノ届出ヲ爲テ
 ナルモ婚姻ノ届出ノ受理ニ因リ隠居ノ届出ヲ爲シタルト同一ノ效果ヲ生スル
 モノトス)
 婚姻ノ届出ノ受理ニ因リ隠居ノ届出ヲ爲シタルト同一ノ效果ヲ爲シタル場合
 ニ在リテハ更ニ其旨ヲ届出シタルコトヲ要セズ
 (第三) 隠居カ取消サレタルトキ
 戸籍吏カ隠居ノ届出ヲ受理シテ其登記ヲ爲シタル後裁判所カ隠居ヲ取消ス判

決前第一ノ(四)参照ヲ言渡シ其判決確定シタル場合ニ於テ其訴ヲ提起シタル者
カ隠居若其他ノ私人ナルトキハ其者ハ判決確定ノ日ヨリ一箇月内ニ判決ノ隱
本ヲ提出シテ隠居登記ノ取消又戸籍吏ニ申請スルコトヲ要シ其訴ヲ提起シタ
ル者カ檢事ナルトキハ檢事ハ前同一ノ條件ニ從ヒ隠居ノ登記ノ取消ヲ戸籍吏
ニ請求スルコトヲ要ス(第一二二條)

第十一節 失踪ニ關スル届出

(第一) 總論

(一) 本節ニ於テハ失踪ニ關スル届出即チ戸籍法第四章第十一節ノ規定ヲ説明
スルニシ、
(二) 不在者ノ生死カ七年間分明ナラザルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ
因リ失踪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得、戰地ニ臨ミタル者沈没シタル船舶中ニ在リタ
ル者其他死亡ノ原因タルヘキ危難ニ遭遇シタル者ノ生死カ戰爭ノ止ミタル後、
船舶ノ沈没シタル後又ハ其他ノ危難ノ去リタル後三年間分明ナラザルトキ亦

同シ(民法第三〇條)

失踪ノ宣告ヲ受ケタル者ハ右ニ示シタル期間満了ノ時ニ死亡シタルモノト看
做ナル(民法第三一條)

(三) 失踪ノ宣告カ不適法ナルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ失踪ノ
宣告ヲ取消スコトヲ要シ(人事訴訟手續法第七八條、第七〇條、民事訴訟法第七七
四條、失踪者カ生存スルコト又ハ前(一)ニ示シタル期間満了ノ時ト異ナリタル時
ニ死亡シタルコトノ證明アルトキハ裁判所ハ本人又ハ利害關係人ノ請求ニ因
リ失踪ノ宣告ヲ取消スコトヲ要ス(民法第三二條)

(四) 失踪ノ宣告及ヒ其取消ハ判決ヲ以テ之ヲ爲ス、失踪ヲ宣告シタル判決ニ對
シテハ上訴ヲ許サナルカ故ニ其判決ハ言渡ト同時ニ確定ス之ニ反シテ失踪ノ
宣告ヲ取消ス判決ニ對シテハ上訴ヲ許スカ故ニ其判決ハ上訴期間ノ経過等、民
事訴訟法ノ規定ニ從ヒ確定ス
失踪ノ宣告及ヒ其取消ニ關スル訴訟手續ニ付テハ人事訴訟手續法第四章ノ規
定ヲ参照スヘシ

(第三) 届出ノ手續

- (一) 失踪ノ宣告アリタルトキハ其宣告ヲ請求シタル者ハ判決確定ノ日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ判決ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス(第一二三條)
- 一 失踪者ノ氏名出生ノ年月日職業及ヒ本籍地
- 二 失踪ノ宣告アリタル年月日
- 三 失踪者カ家族タルトキハ戸主ノ氏名族稱及ヒ戸主ト失踪者トノ續柄
- (二) 失踪ノ宣告ノ取消アリタルトキハ其取消ヲ請求シタル者ハ判決確定ノ日ヨリ一箇月内ニ判決ノ謄本ヲ提出シテ失踪ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス(第一二四條)

第十二節 死亡ニ關スル届出

(第一) 總論

- (一) 本節ニ於テハ死亡ノ届出及ヒ其報告等ニ關スル手續即チ戸籍法第四章第十二節ノ規定ヲ説明スヘシ

- (二) 死亡ノ報告ヲ爲スヘキ場合等ニ付テハ後ノ第三ニ之ヲ説明スヘシ此等ノ場合ニ在リテハ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要セス其他ノ場合ニ在リテハ届出義務者ハ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス
- (三) 死亡トハ出生ニ因リテ人格ヲ得タル者カ其生命ヲ失フヲ謂フ随テ死胎分娩ノ如キ場合ニハ死亡ノ届出ヲ爲スヘキ限ニ在ラズ

第二) 死亡ノ届出

- (一) 死亡者アリタルトキハ左ニ掲クル者ハ其順序ニ從ヒ死亡ノ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ但シ同順位ノ届出義務者數人アルトキハ其中ノ一人ヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル(第一二六條)
- 第一 死亡者ノ戸主
- 第二 死亡者ト住所又ハ居所ヲ同シタル者
- 第三 死亡者アリタル家屋又ハ土地ノ所有者若クハ管理人
- 第一ノ順位ニ在ル者ナキトキ又ハ其者カ心神喪失等ノ事由ニ因リ届出ヲ爲スコト能ハザルトキハ第二ノ順位ニ在ル者ヨリ届出ヲ爲スコトヲ要シ第一及ヒ

第二ノ順位ニ在ル者ナキトキ又ハ此等ノ者カ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ
 第三ノ順位ニ在ル者ヨリ届出ヲ爲スコトヲ要ス
 (二) 病院監獄其他ノ公設所ニ死亡者アリタル場合ニ於テ前(一)ニ掲ケタル届出
 義務者ナキトキ又ハ此等ノ者カ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ病院監獄其他
 ノ公設所ノ長若クハ管理人ハ死亡ノ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ(戸籍法第百二十八
 條ニ依リテ同法第七十四條準用)

其後ノ場所ニ死亡者アリタル場合ニ於テ前(一)ニ掲ケタル届出義務者ナキトキ
 又ハ此等ノ者カ届出ヲ爲スコト能ハサルトキニ關シ戸籍法ニ別段ノ規定ナキ
 ハ不備ナリ隨テ此場合ニ在リテハ死亡者ノ本籍分明ナラス且ツ何人タルコト
 ヲ認識スルコト能ハサルモノトシテ警察官ヨリ死亡ノ報告後ノ(第三)參照ヲ爲
 スノ外ナカルヘシ
 (三) 死亡者アリタルトキハ届出義務者ハ其死亡ヲ知リタル日ヨリ五日内ニ死亡
 ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス但シ此届出期間ハ傳染病豫防其地衛生ノ爲メ特別ノ
 必要アルトキニ限り行政官廳ノ命令ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ得(第二二五條)

ニ屬スル物ハ重ニ羅馬ノ古代ニ於テ農業上ニ用ヒラレタル物ヲ指スカ如シガ
 イユスノ言ヘル如ク「レス、マンシビー」ハ此時代ニ於テハ一般ニ高價ノ物ナリキ
 之ニ屬スル物ハ左ノ如シ

- (一) 伊太利國內ニ於ケル不動産
- (二) 農業上ノ地役權 例ヘハ通行權或ハ水權ノ如シ
- (三) 奴隸及ヒ家畜

此他ノ物ハ「レス、チク、マンシビー」ニ屬セシモノナリ例ヘハ野獸伊太利以外ノ土
 地伊太利以外ノ農業上ノ地役權、鑄造貨幣等ノ如キ是ナリ
 此分類ハ不規則的ノモノニシテ且ツ人爲的ノモノナリト雖モ之ヲ以テ當時ニ
 於ケル羅馬ノ經濟上ノ有様ヲ知ルコトヲ得蓋シ當時ノ羅馬ノ人民ハ其住居一
 定シ且ツ農業ニ従事シタルカ故ニ土地及ヒ農業ニ關スル種種ノ機械器具等ノ
 重セラレタルナリ即チ土地、家屋、奴隸、家畜等ノ如キ物カ羅馬人ニ取リテハ甚ダ
 必要ナルモノニシテ彼等ハ之ヲ子孫ニ傳ヘテ其生活ヲ維持セシメシコトヲ冀
 ヘリ而シテ其以外ノ物ハ即チ之ヲ貴重ノ物ニ非スト爲シ容易ニ消費又ハ讓渡

ヲ爲スコトヲ得タルモノナリ是ニ由リテ觀レバ此分類ハ古代ノ人民カ其物ノ
 高價ナルト廉價ナルトニ付テ爲シタル分類ナリト謂フコトヲ得ヘシ蓋シ此觀
 察ニ依レハ能ク此分類ヲ説明スルコトヲ得、
 古代ノ羅馬ニ於テハ總テノ物ノ所有權ヲ移轉シ極メテ嚴重ナル儀式ニ依リテ
 行ハレタリ羅馬ノ初期ニ當リテ或王カ價ノ低キ物ニ對シテノミ其儀式ヲ廢セ
 ルコトアリ即チ此嚴重ナル儀式ニ依リテ所有權ヲ取得ヲ爲ス物ノミヲ「レス、マ
 シンシビー」ト爲シタルモノナリ向キ此物ノ分類ニ付テハ實用上ノ差異アリキ
 「レス、マンシビー」ヲ取得スルニハ最モ嚴重ナル「マシシバシヨ」[manusipatio]ト云ハ
 ル儀式ニ依ルコトヲ要シタルモ「レス、キク、マンシビー」ヲ取得スルニハ「マンシバ
 シヨ」ニ依ルコトヲ要セス且ツ「レス、マンシビー」ト通常ノ引渡「traditio」ニテハ其所
 有權ヲ取得スルコトヲ得ナリシモ「レス、キク、マンシビー」ヲ取得スルニハ此通常
 ノ引渡ヲ必要トシタリ若シ「レス、マンシビー」ニシテ通常ノ引渡ニ依リテ讓渡ヲ
 レタルトキハ其讓渡ハ根本的無効ナリシカ故ニ讓渡人ハ其引渡シタル物ヲ取
 戻スコトヲ得タリ若シ讓受人カ之ヲ取得センニハ取得時効(tusucapio)ヲ必要ト

セリ要スルニ「マンシバシヨ」ハ「レス、マンシビー」ヲ讓渡スルニ必要ナリシモノナリ」
 次ニ此區別ノ實益ハ女子ノ被後見人タル場合ニ關セリ羅馬ニ於テハ女子ハ永
 久被後見ノ地位ニ在ル者ナリシカ羅馬ノ女子ハ「レス、マンシビー」ヲ讓渡スニハ
 常ニ後見人ノ同意ヲ要スルコトト爲セリ、
 此「レス、マンシビー」及ヒ「レス、キク、マンシビー」ノ分類ハ世々文明ニ進ムニ隨ヒテ
 消滅スルコトナク商賣上ノ物品ノ増加スルニ隨ヒテ此分類ハ效力益々大ナルニ
 至リタリキ蓋シ「レス、マンシビー」及ヒ「レス、キク、マンシビー」ノ數ハ古代ニ於テハ
 一定不變ナリシト雖モ後世ニ至リテ始メテ羅馬人ニ知ラレタル物例ニハ伊太利
 以外ノ土地、金銀貨幣、駱駝ノ如キ獸類、抵當權、債權等ノ如キハ價ノ低キ物トシ
 「レス、キク、マンシビー」中ニ入レタルヘカラナルニ至レリ羅馬人ハ此ノ如ク
 此分類ノ不便カ漸大ナルニ至レルニ拘ラス仍ホ之ヲ排斥スルヲ努メシテ
 唯不便ヲ妨ク所ノ種種ノ方法ヲ設ケテ之ニ適用シ來レリ此分類ハ羅馬帝政ノ
 下半期ニ於テモ仍ホ存在シテ「レス、マンシビー」帝ニ至リテ全ク之ヲ廢セリ即チ「テ
 ニ」ニ於テモ「アン」帝ハ所有權ハ全ク之ヲ一種ニ限リ引渡ニ依リテ之ヲ移轉スルコ

トヲ得ルモノトセリ
 (丙) 動産 (res mobiles) 及チ不動産 (res immobiliæ)
 動産トハ物自身ノ活動力ニ因リテ動カカ又ハ外力ニ因リテ之ヲ動かスコト
 ヲ得ル所ノ物件ヲ謂フ例ヘハ奴隸家畜器具等ノ如シ
 不動産トハ外力ヲ以テ之ヲ動かスコトヲ得サルモノヲ謂フ例ヘハ土地家屋
 等ノ如シ

- 動産不動産ノ區別ハ羅馬ニ於テハ完全ニ發達セス又近世法律ニ於ケル如キ程
 ノ效用アラザリキ然レトモ此區別ハ羅馬法ニ於テハ種種ノ點ヨリ必要トセリ
 例ヘハ占有權先占權取得時效嫁資質權竊盜等ノ學理ニ關シテ必要アリキ即チ
 (一) 動産ノ時効ハ一年ヲ以テ完成シ不動産ハ二年ヲ要セリ
 (二) 竊盜ノ目的物ハ常ニ動産ナリキ何トナレハ物ヲ盜ムトハ物品ノ移轉ヲ意
 味スルカ故ナリ
 (三) 夫ハ其妻ノ嫁資タル動産ハ之ヲ讓渡又ハ質入ヲ爲スコトヲ得タルモ不動
 産ニ付テハ斯ル權利ヲ有セザリキ但シ妻ノ承諾ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

(四) 後見人ハ被後見人ノ動産ハ之ヲ讓渡スコトヲ得シモ不動産ハ之ヲ讓渡ス
 コトヲ得ザリキ

(五) 不動産ノ上ニハ地役權ヲ設定スルヲ得シモ動産ノ上ニハ之ヲ設定スルコ
 トヲ得ザリキ

(六) 不動産ハ常ニ特定物ナリシモ動産ハ之ニ反シテ多クハ不特定物ナリキ
 (七) 此分類ハ天災ニ因リ物ノ滅失セル場合ニ於ケル辨濟ニ付キ大ナル關係ヲ
 有セリ即チ或偶然ノ事由ニ因リテ不動産ノ滅失シタルトキハ之ヲ辨濟スル
 ノ義務ナカリシモ其滅失シタル物ハ動産ナルトキハ其義務者ハ他ノ物ヲ以
 テ辨濟スルコトヲ要シタリ

動産ニハ消費物及ヒ不消費物又ハ代替物及ヒ不代替物ヲ包含セリ
 消費物トハ之ヲ消費セザレハ使用スルコトヲ得サル物ナリ
 不消費物トハ幾度モ反復シテ使用スルコトヲ得ル物ナリ
 例ヘハ一籠ノ林檎ヲ借リタリトセハ之ヲ返濟スルニ當リ其借リタル物自體ヲ
 返還スルノ必要ナク他ノ林檎ヲ以テ返濟スルコトヲ得ヘシ何トナレハ林檎ハ

素ト消費物ナレハナリ然ルニ若シ此机上ノ土瓶ヲ借リタリトモハ必ス此物ヲ返還セザルヘカラス是レ不消費物ナレハナリ

代替物トハ常ニ數或ハ量ヲ以テ計ルヘキモノニシテ之ヲ消費シタル場合ニ其種類ト分量トヲ同シウスレハ他ノ物ヲ以テ返濟スルコトヲ得ル物ヲ謂フ

例ヘハ酒一樽、米一斗ノ如シ

不代替物トハ一箇ノ獨立ナル物トシテ觀察スヘキモノニシテ例ヘハ彼馬此「コップ」ト謂フカ如シ

代替物及ヒ不代替物ノ區別ハ當事者ノ承諾ニ因リテ生スルモノナリ例ヘハ酒又ハ米ノ如キハ他ノ物ヲ以テ辨濟スルコトヲ得ルトキハ代替物ニシテ必ス同一ノ酒又ハ米ヲ以テ返濟スヘキトキハ不代替物ナリ此分類ハ偶然ノ事實ニ因リテ其物ヲ滅失シタルトキニ其義務ノ辨濟ニ關係ヲ及ホセリ辨濟ニ關スルトハ即チ辨濟ヲ爲スヲ要スルト要セザルトニ在リ例ヘハ借用セル馬カ火災ノ爲メニ燒死シタルトキハ之ヲ返還スルヲ要セザルモ若シ米ナルトキハ他ノ同種同量ノ米ヲ以テ辨濟スルコトヲ要スルカ如シ

次ニ不動産ニ關スル重大ナル區別ヲ述フヘシテ其間ノ土地ノ時價ノ不確定ニ羅馬帝政時代ニ於テハ伊太利内外ノ土地及ヒ伊太利外ノ土地ノ二大部分ニ區別セリ此區別ハ羅馬ノ公法及ヒ私法ニ大ナル關係ヲ有セシモノナリ

今此區別ノ由リテ生シタル理由ヲ理會セメント欲セハ宜シク羅馬古代ノ土地所有權ノ歴史ニ遡リテ研究スルコトヲ要ス

(甲) 伊太利ノ土地 古代ニ於テ羅馬市内ノ土地及ヒ羅馬市ノ附近ノ土地ヲ羅馬ノ土地ト曰ヒ羅馬ノ土地ハ更ニ之ヲ別ナクテ公地 (ager publicus) 及ヒ私地 (ager privatus) ト爲セリ私地ハ羅馬市民ノ私有財産ノ一部分ニシテ私有制度内ニ屬セシモノナリ公地ハ羅馬人民ノ共有地トモ謂フヘキモノニシテ共同ニ使用スルモノナリ

公地ノ一部分ハ公共ノ用ニ供スルモ他ノ一部分ハ羅馬ノ市民ニ貸與シテ之ヲ使用スルノ權ヲ得セシメ其地代ハ羅馬ノ國家ニ於テ之ヲ徵收セリ

初メ羅馬ノ土地ハ極メテ制限セラレタル一小部分ニ過キサリシカ羅馬カ其勢カラ増シテ漸漸伊太利ノ他ノ部分ヲ征服スルニ至リテ所謂羅馬ノ土地モ亦漸

漸擴マルニ至レリ蓋シ羅馬ニ於テハ羅馬人ノ征服シタル土地ハ征服者ノ所有ニ歸セルカ故ニ侵略ニ因リテ漸漸羅馬ノ土地ヲ増加シ隨テ私有地ハ非常ニ増加スルニ至レリ其數カハ國庫ニ納メテ國庫ニ充テシタルモノナリ

公地ニシテ羅馬市民ニ貸付シタル部分ニ付テハ國家ハ固ヨリ其土地ヲ所有シ一人ニハ唯其占有權ヲ與ヘタルニ過キナルカ故ニ何時ニテモ之ヲ取戻スコトヲ得タリ然ルニ實際上取戻スコトナキノミナラス終ニハ地代ヲモ徵收スルコトヲ爲サザリキ此ノ如クニシテ羅馬ノ共和政治ノ末期ニ至リ羅馬ノ土地ハ悉ク一私人ノ有ニ歸シ隨テ伊太利ノ土地ハ悉ク私有地ト爲ルニ至レリ且テ其伊太利ノ土地ハ租稅ヲ徵收セラルルコトナカリシカ故ニ其價非常ニ騰貴シレスマンシビ一種ト爲ルニ至レリ

(乙) 伊太利外ノ土地 羅馬カ各國ヲ征服スルニ當リテ其伊太利以外ノ土地ヲ征服スルヤ伊太利國內ニ於テ羅馬人カ征服シタル土地ト同シク伊太利以外ノ土地モ亦羅馬ノ土地ノ中ニ入レリ然レトモ實際上伊太利外ノ土地ノ大部分ハ之ヲ一私人ノ所有ニ歸セリ伊太利外ノ土地ハ伊太利内ノ土地ト相對シテ不動産

上ノ一稱ノ階級ヲ形成シタルモノナリ此二種ノ土地ノ上ニハ三箇ノ根本的差異ヲ認ムルコトヲ得

(一) 伊太利外ノ土地ハ國家カ其所有權ヲ有シ其占有者ニハ使用ノ對價トシテ一種ノ地代即チ地稅ヲ納メシメタリ然ルニ伊太利ノ土地ニ付テハ租稅ヲ納ムルノ義務ナカリキ

(二) 伊太利外ノ土地ハ國家カ其所有權ヲ有スルカ故ニ占有者ヨリ之ヲ取戻シテ他ノ私人ヲシテ之ヲ占有セシムルコトヲ得之ニ反シテ伊太利ノ土地ニ付テハ國家ニ斯ル權利ナシ

(三) 伊太利ノ土地ハ「スマンシビ」中ニ屬シタルモ伊太利外ノ土地ハ此種類ニ屬セス且ツ伊太利外ノ土地ハ國家カ其所有權ヲ有シ私人ハ其占有權ヲ有スルニ過キザリキ

右ノ土地ノ區別ハ羅馬帝政ノ末期ニ至リ漸漸消滅セリ蓋シ羅馬帝政ノ末期ニ至リテ羅馬政府ハ財政頗ル困難ニ懸キ國庫ノ空虚ヲ告タルニ及ヒ伊太利内ノ土地モ亦地稅ヲ課セラルルコトモ伊太利外ノ土地ノ如ク爲ルニ至レリ然レトモ

理論上仍此區別ヲ存シ「デユエチニアン」帝ノ時代ニ至リテ遂ニ全ク廢滅セリ
 即チ「デユエチニアン」帝ハ此區別ヲ廢シ土地ハ其位置ノ如何ニ拘ラス總テ一種
 ニ過キストセリ「（羅馬法論）」（未詳）ニ至リテ前所論ノ如ク「（羅馬法論）」（未詳）ニ
 次ニ不動産上ニ必要ナル區別アリ田舎ノ不動産及ヒ市内ノ動産即チ是ナリ理
 論上市内ノ土地トハ市内ノ不動産ヲ曰ヒ田舎ノ土地トハ田舎ニ於ケル不動産
 ヲ曰ハルモノナリ然ルニ實際上ニ於テハ市内ノ不動産ト云ヘハ多ク家屋ヲ指
 シ田舎ノ不動産ト云ヘハ多ク土地ヲ指セリ其結果トシテ羅馬ニ於テ市内ノ地
 役權ト云ヘハ常ニ家屋ニ關スル地役權ヲ言ヒ田舎ノ地役權ト云ヘハ田舎ニモ
 家ニ關スル地役權アルニ拘ラス常ニ土地ニ關スル地役權ヲ言ヘリ（羅馬法論）
 以上ヲ以テ可有物ノ分類ニ關スル説明ヲ了レリ

第二 不可有物（res sacrae） 是レ高貴ナル神ニ捧ケラレタル物件ナリ此神用物ハ
 不可有物トハ一人ノ所有ト爲シ得ヘカラサルノ財産ニシテ左ノ如ク分類ス
 ルコトヲ得（羅馬法論） 一 三神（ユピテル、ジュピター、ミネルヴァ）ニ捧ケラレタル神用物トハ人類カ神ニ捧ケタルモノニシテ神自體ノ所
 有物ナリトノ觀念ニ由ルモノナルカ故ニ私人ハ之ヲ所有スルコトヲ得ナリ
 シナリ神用物ニ三種アリ（羅馬法論） 一 高貴ナル神ニ捧ケラレタル物件ナリ此神用物ハ
 「（羅馬法論）」（未詳）云フ宗教的ノ儀式ニ依リテ神ニ捧ケラレタルモノナリ
 「（羅馬法論）」（未詳）云フ宗教的ノ儀式ニ依リテ神ニ捧ケラレタルモノナリ
 神用物ハ「（羅馬法論）」（未詳）儀式ニ反對ナル或嚴格ナル儀式ニ依ルニ非サレ
 ハ其性質ヲ失フコトナク隨テ一人ノ所有ト爲ルコトナカリキ（羅馬法論）
 此神用物ハ讓渡スルコトヲ得ス又時效ニ罹ルコトナク債權ノ擔保ト爲ス
 ヲ得ス唯羅馬人カ敵ノ浮屠ト爲レルトキニ之ヲ買戻ス爲メ及ヒ飢饉ニ際
 シテ貧民ヲ救フ爲メニハ例外トシテ之ヲ私人ニ賣却スルコトヲ得タリ神
 用物ヲ侵シタル者ハ神ヲ瀆シタル者トシテ極メテ嚴重ニ處分セラレタリ

乙 安魂物（res religiosae） 安魂物ハ其初ニ於テハ之ヲ劣等ノ神即チ家ノ神ニ
 捧ケタル物ナリ蓋シテ耶蘇教ノ羅馬ニ入リテヨリ安魂物ハ死人ノ魂ニ捧ケ
 ラルルニ至レリ即チ死人ヲ埋メタル墳墓ノ地ヲ以テ安魂物ト爲セリ故ニ
 安魂物ハ一人ノ意思ヲ以テ之ヲ設定スルコトヲ得タリ即チ一人ハ各

自ノ私有ノ土地ニ親ノ屍ヲ埋メ且ク其土地ヲ讓與スルコトヲ得ト云フ條
 件ノ下ニ於テ安魂物ト爲スコトヲ得タリ是ヲ以テ羅馬ニ於テハ物ヲ安魂
 物ト爲スハ物ヲ他人ニ讓與スルニ異ナラザリキ羅馬ニ於テハ若シ安魂物
 カ人ノ爲メニ侵害セラレタルトキハ一種特別ナル訴訟ニ依リテ之ヲ訴訟
 スルコトヲ得セシメタリ特別ノ訴訟手續トハ羅馬市民タル者ハ何人ト雖
 モ起訴スルノ權ヲ有シタルヲ云ヘルモノナリ安魂物ハ國家ノ許可ヲ得テ
 死骸ヲ取除ケハ復タ舊ノ如ク私有地ト爲スコトヲ得タリ

丙 神護物 (res sacra) 是レ以上二種類ノ物ト異ナリ宗教ノ儀式ニ依リテ設
 タルト雖モ神ノ用ニ供セシモノニ非ス例ヘハ羅馬市ノ城壁又ハ門戸等ノ
 如キハ此中ニ包含シ又羅馬市ノ代表者或ハ外國公使等モ亦此中ニ包含セ
 リ此神護物ヲ漬シタル者ハ何人ト雖モ悉ク死刑ニ處セラレタリ

(二) 共用物 (res communes) 共用物ハ又一私人ノ所有ニ歸スルコトナク各人ノ其有
 ニ屬セシ物ナリ例ヘハ海岸等是ナリ而シテ海岸トハ冬季ニ於テ海ノ最モ
 大ナル波濤ノ連スル部分ヲ云ヘリ

校外生規則摘要

- 一 講義録ハ各部毎月二回發行シ滿一今年ヲ以テ卒業トス
- 一 一今年ヲ以テ完了セザルトキハ號外ヲ發ス
- 一 講義録ハ之ヲ三部ニ分ツ其發行定日左ノ如シ
 - 第一部 毎月 五日 二十日
 - 第二部 毎月 十日 廿五日
 - 第三部 毎月 十五日 三十日
- 一 月謝金ハ全部壹圓、各一部四十錢トス但シ入學金ヲ要セス
- 一 校外生ハ本校講義會、討論會ニ出席傍聽スルコト及ヒ本校ノ出版ニ係ル書籍雜誌ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得
- 一 校外生全部卒業證書ヲ有スル者ハ試験ノ上校外生三年級ニ編入セラルルコトヲ得
- 一 校外生ハ講義録中ノ疑義ニ付キ質問スルコトヲ得
- 一 但シ返信用郵券ヲ封入スルコトヲ要ス
- 一 三個月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス
- 一 月謝ハ東京飯田町郵便支局佛和佛法律學校會計係トスヘシ

明治廿二年十二月九日內務省許可

明治三十四年六月十六日印刷

明治三十四年六月二十日發行

東京市芝區四谷町三丁目三十八番地

編輯者 小田幹治郎

東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

印刷者 金子鐵五郎

東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

印刷所 金子活版所

東京市總町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

指定 (電話番町百七十四番)